大日本蠶絲會報

第六拾五號

明治三十年十一月

目次

●論說
●蠶業意見　高津伸次郎
●桑樹萎縮病に就て　舩津傳次平
●蠶兒の氣門新に二を加ふ　吉池慶正

●寄書
●北村鋭治郎氏の營繭說に就て　山本竹藏
●清白養法論　大島正義
●日本蠶業改良意見　山本甬
●製絲の成績　川合菊次郎

●問答
●雄性を藉らざる蠶兒の發生に就き質問幷に答●蠶種不發生に就き質問幷に答●春蠶種不時の發生に就き質問幷に答●蠶の元祖に就て質問幷に答●火力に就て質問幷に答

●統計
●明治二十九年蠶絲、眞綿及蠶卵紙產出府縣別表●三十年九月生絲類及絹物類輸出統計●三十年九月生絲類及絹物類輸入統計●自本年一月至九月生絲類及絹物類輸出累計●五箇年間米國生絲及屑物輸入高●佛國累年蠶業統計

●外報
●清國山東省山繭及絲の狀況●伊太利繭取引高及確定相場

●雜報
●山形支會發會式●山形支會大集會●山形支會役員當選●生絲檢査成績の報告期改正●橫濱生絲檢査所生絲檢査調●神戸生絲檢査所生絲檢査調●生絲取引呼直の改正●外商と定期市場●本年中央亞細亞養蠶の結果●佛國蠶絲類輸入課稅の出願●露領高加索官立製絲場及織工場●清國蠶絲業視察報告●米國に於ける日清の繭絲●蠶絲業家の奮發●小野橋吉氏銀杯を受く●養蠶架に用ふる竹に就て●練木紫藤兩氏の演說●製絲家と佛國博覽會●

入會の勸誘を望む

本會創設以來未だ多年ならざるに入會者は陸續として日に月に增加し今や栃木、新潟、富山、靜岡、山形、福島の六縣には支會の設立をも認可するに至り會運は宛も朝暾の昇るが如く駸々乎として隆昌の域に向へり是れ固より有志家諸君が熱心蠶絲業の發達を企圖せらるゝの精神に基くと雖も然れども亦本會が斯業に向つて裨益すること大且つ多なるに由らずんばあらざるなり夫れ既に然り本會は益々力め愈々盡す所あらんとす原來本會唯一の目的たるや本邦をして世界第一等の蠶絲國たらしむるにあり而して此目的を達せんと欲せば勢ひ本會員の汎く全國に渉りて最多數を要せざるを得ず就ては滿腔愛國心を以て充たし國家の最大富源たる蠶絲の改善進歩を任ぜらるゝ會員諸君は精々同志者に勸誘し入會を紹介せられ相共に提携し國家的責任を盡されむことを希望す

但本會に入會せらるゝには一ヶ年分以上の會費を添へて申込まるゝを要す　尙ほ本會規則入用の方は郵券貳錢を添へ御申越あらば直ちに送呈すべし

大日本蠶絲會

論說

編者曰く左の一篇は高津氏が本年五月農商務省の委囑を受け淸國に於ける養蠶及製絲業の狀況を探究せむが爲め彼地に渡航し親しく調査を遂げ七月二十三日歸朝せられ其の巡廻中に於ける視察の狀況を報告せらるゝに當り主務省へ呈せられたる氏の意見なり玆に錄して以て讀者諸君に紹介す

蠶業意見

大日本蠶絲會特別會員　高津仲次郎

蠶業の我國家經濟に於けるや其位置甚た重大にして其業の消長は貿易の過不及となり其收穫の豐凶は國民多數の休戚に關するが故に苟も其生產を改良進歩せしむるの方法ある時は直に採用して當業者に其實行を奬勵するは必要なれども尙ほ之が爲め常に世界の同業に注意して其優劣を調査し長短を考究し我蠶業に於ける前途の利益を計るは肝要と云ふべし然るに世界廣しと雖も養蠶の境域は甚た狹くして僅に亞細亞歐羅巴二洲の中氣候最も穩和なる地方に之を產するに過ぎず就中之を以て國產の大部分と爲すものは伊太利、佛蘭西、日本、支那の四國にして此中佛國は自國の生產を以て自國絹織物の原料と爲すに足らず伊太利は其製絲常に自國用として餘りあれども大概之を佛國及他の歐洲諸國に吸收さるゝが故に米國の如き多額の消費地に向つてすら少量の輸出あるのみ其供給は殆と既に極點に達せり故に佛伊の兩國は夙に文明の學術を應用し養蠶製絲の兩業共に改良進歩に汲々として其生產者にも亦少からざる保護を與へ之を奬勵すと雖も製產費の多額を要する爲め前途の希望は甚た薄くして佛國

の如きは今や僅に奬勵金に賴り其命脉を持續するの色あり即ち佛國生絲の生產費は普通原料の價を合せて百斤に付大凡一千餘圓を要し又伊大利にては九百餘圓を要せり然るに東洋即ち支那日本の生產費は其原料非常なる凶作に遭遇するにあらずんば斯の如き高價の費用を要することなきが故に將來東洋の製絲業改良進步せば遂には伊佛を壓倒し終らんこと明白なりと雖も唯現今の事情未だ斯くの如くならざるものは全く製造未熟にして彼れの製品は良好なる經絲となれども我れの產出は些かに其緯絲として用ひらるゝに過ぎざるに依ると云ふべし

以上の次第なるが故に之を我國の蠶業より見れば佛伊の兩國は競爭上最早恐るべき敵にあらず唯我製絲業を改良進步せしめて其品質を高むる時は生產費用の差に於て遂に之と拮抗すること容易なりと雖も將來恐るべきは今回巡廻し來りたる支那兩江地方の蠶業にして今後其進步如何に依りては我同業者の爲め如何なる大敵とならんも知るべからず既に今日に於てすら殆と一萬の器械釜數を有するを以て是等の製造所が十分に働く時は每歲一萬以上一萬五六千捆の絲は容易に製出すべきのみならず尙は將來此釜數の增加するに至らば其製產額も之に從ひ增加するは明かにして其原料たるべき繭は上來縷述する如く我國の繭に比すれば甚だ優等なるが故に假令前にも述る如く現今の事情より推すときは清國人の習癖として俄に其產絲を廢し器械絲のみ盛大になるべしとは萬々想像し難き事なれども其は唯時期の問題にして清國如何に遲鈍なりとて今後永久現狀に止まり居るものにあらず遂には早晩世界の進步に刺戟されて大變化を生ずるや明かなるに依り其變化の時に際會せば我蠶業は之に依りて如何なる打擊を受くるや殆と豫知し難きところにして精勵亟勉の結果として最初は一度伊佛に勝つも再度の競爭に於て支那絲に敗北すれば九仞の功を一簣に缺くものなるべし故に今日に於て我蠶業の爲めに謀れば內には專ら改良進步を促して伊佛の絲と併馳せしめんとを奬勵すると共に外には支那蠶業の事情を調查考究して其將來の進行を觀察せざるべからず然るに今日支那の養蠶に對する智識は一般に乏くして一言唯支那の養蠶は大なり其製絲の產額も大なり繭の性質も一般に良好なり製絲の性質も之を製するの法宜しきを得れば亦頗る良好なりと云ふに過ぎず然るに尙は一步進んで委しく彼地の事情を探ぐれば千種萬狀其良否の點眺にありや殆と指摘し難しと雖も未だ是等の事情に於ては詳細の研究も遂げざる間に世上は漫に空論を放ちて支那蠶種を是非し又支那繭の輸入を可否するもの少からざるは甚だ歎ずべき事にして蠶業の爲には世界の先進者たる伊佛の兩國に於てすら支那蠶種の良好なるは夙に之を認むると雖も支那蠶種中の何が最も良好なるやに就ては今日尙ほ未だ疑問にして近來漸く其研究を始めたるに過ぎず故に支那の蠶業は今日全く世界の疑問なり其蠶種に在つては如何なる良好の種類ありや又此蠶種の中には此れを他國に移して大に其蠶種を改良するの材料となるものあらざるや若し單純に移すことの不適當なるに當りては此れを他の蠶種と掛け合はせたらんには如何なる結果を生ずべきや是等は實に唯卓上の空論にて決定すべき問題にあらず實地の研究を必要とするや明かなり尤も我國にては從來西ヶ原の試驗場に於て支那蠶種中の一二を試驗し其成績は世人の知るところなりと雖も之僅に支那蠶種の一端を窺ひしに過ぎずして未だ其全豹を究め得たりと云ふべからず故に唯此の結果のみにては未だ支那蠶種の適不適を決定すること能はざるものと云ふべし斯の如く支那の蠶業に對する我國の調查は未だ不完全なりと雖も支那蠶絲の良好なることは其消費地に於ける試驗の結果に依りて明かなりと云ふべし今米國人ブリースメ氏が日淸及伊國の器械生絲に於て比較したる試驗の結果に據れば日本絲は支那及伊太利絲に比し左の諸點に於て劣れりとす

織上げたる後ち光澤の惡しき事
デニール不同なる事
强伸力に乏しき事
細むら多き事

繭節多き事

繊上げたる後ち手觸り良からざる事

是に由りて觀れば支那絲の日本絲に優れるは萬明かなる證據にして雙方共に同く器械製絲なるが故に其原因は製造法に依るものと云はざるべからず故に將來我製絲と彼の製絲と競爭して結局の勝利を博せんとなれば原料たる繭の性質を改良して彼に劣らざるものと爲さゝるべからず然るに其繭を改良するには蠶種よりして改良するか若は彼地の繭を輸入して我製絲の原料と爲すかの二點に過ぎずと雖も今日のところ二者共に之を實行するに障害多くして困難なる爲め養蠶家及製絲家は孰も皆五里霧中に彷徨せるもの〻如し然るに今回視察の結果に依り熟〻考ふるに蠶種の改良及支那繭の輸入に於ては未た全く失望して斷念すべきの時に非ざるべしと信ずるのみならず尚は大に進んで之が實行を希圖して着々歩を進めて支那蠶種の調査研究を遂げ之を我國に移すの法を講ずると共に又繭及製絲に對する關稅の障害を除かば好結果を收め得て漸次に我養蠶家を利益せしむると共に製絲家も原料の輸入自由を得て屢〻繭の缺乏に依り苦めらるゝの事も少きや明かなり即ち其方法の一は結局我國土氣候に適するの良種を得るを目的として支那蠶種を調査することにして從來の如く獨り內地に於て研究するのみにては隔靴搔痒の歎少からざるが故に彼地にも又一の研究所を設立し彼我相應じて蠶業上種々の問題を研究するにあり又一には日本の製絲家が支那繭を彼地に仕入れて製絲と爲し之を輸出するまでの諸稅金を彼地の製絲家に比するに我製絲家の負擔彼に超ゆるものあるを以て速かに之を撤去せば大に我製絲家をして支那繭輸入の道を容易ならしむべし故に以上の方法を行ふ爲め左の二策を實施せられんことを希望す

第一研究所を本邦及清國に設くる事　清國の蠶絲に就ては從來我國に於ても之れが研究ありしと雖も僅に一二種の試驗に止まりて未た十分の成績を收めざりしに依り今後は更に其規模を擴張して之が研究に專ら力を注ぐと共に彼地に於ても之れが研究を爲すは甚た必要なることなり清國繭の良好なるは素より其種類に依ると雖も或は彼國風土氣候飼養法等にも關係する所少からざるべきに依り之を研究するに唯其蠶種を我國へ輸入し我國にて試驗したるのみにては迚も完全なる成績を得べからず桑樹の栽培の如き土質氣候共に我國と異るを以て是等の吟味は到底彼地に研究所を置くにあらずんば出來べからざることなり然るに戰爭の結果として幸ひにも彼地蠶業の中心地たる蘇州と杭州とを開港せしめ我國に對しては殊に特別居留地を割讓せしめたるが故に是等諸般の研究を爲すには十分の場所を使利を得たるに依り蘇杭の中孰か一箇所の研究所を起し專門の技師若くは老練の蠶業家を派して常住せしめ清國蠶桑の事情一切の研究を命じて我國の研究所と相待ち深く研究を遂げ將來我蠶種改良の實を擧ぐるに勤めんには其效果必ず大なるものあるべし到底通常旅行的巡察の研究にては結局空論に陷りて其成效望み難かるべし

第二支那繭輸入を容易にする事　支那繭を我國に輸入して絲を製するも利益ありや否やの計算は既に之を示したりと雖も此は之れ尋常の場合に於て云ひしのみにして年の豐凶に依り兩國間の供給過不足を生ずるときは支那繭の輸入をして不利のみと云ひ難し殊に其品質の良好なる我か繭に優るに於ては之を輸入して精良の絲を製出すること我製絲家の利益なりと雖も彼此の間輸出入の關稅あるが爲め大に障碍となるものあり假令は生絲百斤の原料として五百斤の繭を上海にて仕入れ之を我國へ輸入するに左の關稅を拂はざるべからず

一金貳拾貳圓貳拾五錢　上海輸出稅（繭百斤三兩ノ割一兩ハ當國參拾五錢ニ換算）

一金參拾七圓拾貳錢五厘　日本輸入稅（原價百斤百十兩ニ對スル五分一）

合計金五拾七圓拾七錢五厘

即ち支那繭を我國へ輸入して製絲する者は之を上海にて製するものに比し運賃諸掛り（五百斤に付拾

七圓五拾錢）の外に同上の稅金を負擔せざるを得ざるが故に同じ原料を以て同じ絲を製するも上海の製絲家は我製絲家に比して五拾七圓安く之を製造し得べし又生絲の輸出稅を見るに彼我の稅甚だ異なりて即ち生絲百斤の稅金比較左の如し

一金貳拾參圓六拾貳錢五厘　日本輸出稅（生絲百斤銀七十五匁一分）
一金拾參圓五拾錢　支那輸出稅（生絲百斤十兩）
差引金拾圓拾貳錢五厘

是に由りて觀れば我輸出稅は支那に比し拾圓拾貳錢五厘高きものなり

以上の事實なるを以て支那繭五百斤を我國へ輸入して生絲百斤を製し之を外國に輸出するときは同じ原料を以て之を上海にて製造し同地より外國に輸出するものに比し稅金のみにて左の損益あり

一金貳拾圓貳拾五錢　（原料繭五百斤上海輸出稅）
一金參拾七圓拾貳錢五厘　（同日本輸入稅）
一金貳拾圓六拾貳錢五厘　（生絲百斤同輸出稅）　日本製絲家の負擔高
合計金八拾壹圓
一金拾參圓五拾錢　（生絲百斤支那輸出稅）　支那製絲家の負擔高
差引金六拾七圓五拾錢　日本製絲家の負擔超過額

是に由りて觀れば支那繭を輸入し之を原料として生絲を製し輸出する者は上海の同業者と比較し稅金の爲め六拾七圓五拾錢の不利を蒙むるものにして互に同性質の絲を製するも彼れは八百圓に賣りて利益ある時我は八百六拾七圓五拾錢に賣らざれば利益なきものなり稅金の差額が其價に及ぼす影響實に大なりと云ふべし然しながら若し我國に於て生絲の輸出稅を全廢し又繭の輸入稅も之を廢する時は其金額六拾圓七拾五錢にして之を以上の差額六拾七圓五拾錢より減ずるが故に差引の差は僅に六圓七拾五錢となるべし即ち左の如し

一金貳拾圓貳拾五錢　（原料繭五百斤上海輸出稅）
一金拾參圓五拾錢　（生絲百斤上海輸出稅）　日本製絲家の負擔
差引金六圓七拾五錢　支那製絲家の負擔

斯の如くなる時は彼我の差金僅に六圓七拾五錢なるに依り我製絲家の勉强と熟練とを以てせば假令上海日本間の運賃諸掛り拾七圓五拾錢を此外に拂ふとするも生絲の相場如何に依りては强ち不利のみにあらざればなり故に將來支那繭を原料として我繭の不足を助けしめ若くは之を基礎として將來起るべき支那の製絲業と競爭せしめんとならば生絲の輸出稅は之を全廢すると共に繭の輸入稅も之を全廢し我製絲家の基礎をして今日の位置よりも尙ほ一層有利の點に置かざるべからざるなり

●桑樹萎縮病に就て

大日本蠶絲會技藝委員　船津傳次平

余は本年三月二十八日を以て開かれたる本會第六回大集會に於て桑樹霜害豫防に就ての演說に引續き桑樹萎縮病のことをも述ぶる積りなりしが當日は演說者の多かりし爲めに之を見合せたれば今玆に其大要を陳述して大方の敎を乞ふことゝはなしぬ

扨近年桑樹に萎縮病の多く殖えたるは識者の實際を顧みることの足らざると又實業者の栽培も昔と少しく異なりし所あるに因るなるべし之を約言すれば栽培の方法其當を得ざるよりして蔓延すると云ふも過言にあらざるべし該病の原由及傳染法の探求且つ豫防法案等に就きては現今西ヶ原蠶業講習所にて精密に試驗せらるゝ由なれば其精確なる報告に接すること應に遠きにあらざるべしされば余は敢て拙なき豫防法を說くの必要なきに由り余は玆に該病を巧みに作ることを述べて以て豫防法の參考に供せんとす是が爲めに幾分か益する所あらば幸ひ之に過ぎず乃ち其目を擧ぐれば（一）施肥多き桑にあ

りとす故に無肥料にて瘠地に栽培したる桑に萎縮病を作ること(二)慘酷に收葉したる桑に發す故に實播苗、取木苗等を栽植し一葉だも摘せずして該病を作ること又細江桑、權七桑の如き淺き所に細き根多き種類には病多しと雖も畔倒、太大和、黒庄土、青庄土、直立等の如き淺き所に細根の少き種類には該病の發すること少きは人の能く知る所なり故に此種類に該病を作ること其他半株づゝ作り或は新梢の中間より該病を作るには凡二三丁以内に其病のある地を撰むか又は該病に罹りたる桑を五六株鍵全なる桑園中に移植して能く注意せば該病を作るの捷徑なるべし扨桑園内は八月上旬より十月頃まで勉めて株間を濕潤ならしめ其落葉を待つて枝梢を束ね(中刈及根刈桑に就きていふ)故らに雨中及雨後未だ土に粘り氣多き時に當つて中耕を爲し細根の多分あるべしと思はるゝ處を踏みて泥捏ねとなし且又枝梢を伐採したる時は株の片側を掘り澆潑(せゝなぎ)の泥樣のものを容れ其上に普通の土を一寸程覆ひ置かば乾き宜しからずして其泥を附與したる方のみ半側萎縮となるべし

次に桑樹の根邊に土を寄するは蚕雌子に夏布子と云ふ諺に反して夏雌子に冬布子と云ふ方を用ひ炎暑中株元を深く鋤き起し或は乾燥せしめ又は株元を窪くして雨水を滯滯せしめ冬は泥土を根部に寄せ附ける樣注意せば萎縮病を作るに最も適當すべし但し地質に由り兩三年間續けて前法を行はざれば發せざる地もあるべし

次に又太根の遠く伸びる種類即ち太大和、青庄土、黒庄土、畔倒等に病を作るには大箱か或は大瓶に乾きたる田土を容れ其中に植ゑて以て成長せしめ一兩年を經て六月頃枝梢を伐採し根邊に水を注ぎ能く踏み其上に乾きたる粉土を一寸程盛り置くときは漸次病桑となるべし其故如何となれば根の遠く伸ぶる種類も箱や瓶にては根の伸長十分なること能はざる爲めに遠方より養分を吸收するの道なきを以て伐採の際出したる液汁を補充するには太根中の内肉にある所の液汁までも其伐口へ迸り出さゝるを得ずして爲めに内肉疲衰して粗皮に變化するより病桑の根皮は最も厚きを致す

又萎縮病を作るに適する伐採法は先づ枝梢を株元より一尺程存して伐り置き翌日一寸程伐りつめ又其翌日一寸程伐りつめ又其翌日一寸程伐りつめ都合伐採三四回に及ぶときは日々液汁を出すを以て株衰へ病を發すべし若し梢の先きに病氣を作らんと欲せば新芽の二三尺伸びたる頃其心を撮まみ潰して腐敗せしめ且つ前法を行はゝ病葉を發すべし若し一回にして發病せざるときは年を累ねて行ふべし初年は至つて輕症に發し次年より漸次重きを加ふるを普通なりとす

次に栽培の注意に就き一言せむに實業家の栽桑上昔と異なりたる點は根刈桑を植うるに當りて深き穴(三尺程)を掘り土質の如何を論ぜず塵芥又は庶肥等を多量に容れ其上に植うるものあり又は冬春の季に桑園の畦間を一尺二三寸餘掘り是亦土質を論ぜず其掘りたる所に種々の肥料を施用するものあり是等の栽培法にして其地に礫石を混ぜずして乾燥不十分ならむには必定萎縮病を作るに適すべし一躰肥料は冬春の季に於て四五寸夏季に於て二三寸の深さに用ふるときは速に化して桑根を養ふものとなるべし(刈草等を埋め置き其粗ぼ腐敗したるときに當り掘り起して作土を混和するものは此限りにあらず)養分は命根より吸收するもの極めて僅少にして淺き所の細き根より多量の養分を吸收し而して命根及幹を太らすものなるべし此理を覺らずして深く肥料を施し置き雨天又は小雨後に耕耘を爲し陷み固めなば小兒の口は閉ぢて屁の方に食物あるから宜しと云ふに類するが如けん扨又冬季中底土(一尺以上を指す)共に軟らぐるは勿論なりと雖も(雹及霜のある時は忌むものとす)肥料は淺き方(夏は深さ二三寸冬は四五寸にて可ならん)效用多かるべし去る明治十一年の春内藤新宿より桑苗數種數百本を取寄せ之を駒場農學校の畑に移植し淺く施肥して以て栽培したるに二ヶ年目にして如何にせしや一本萎縮し其後四五年を經て濕地の處に植ゑたるものゝ中全く萎縮せしもの一株、半ば萎縮せしもの二株のみなりき其後十九年七月に至るまで該病を見ず此時に當りて農學校は農林學校となり余は轉任して農商務省に勤務することゝなれり故に其後は該病の如何を詳知せず

次に粘濕の地に細江桑なり櫨七桑なりを植ゑて雨中に耕耘し其株元を陷み固めなば該病を作ること至りて容易なりとす豫防のことは余未だ十分の研究之なしと雖も病桑を作ることは極めて上手なる積りなれば御請求次第罷越し飯と酒との御馳走のみにて作りて御覽に供すべし扨此一篇は言少しく諧謔に渉るが如し爾く諧謔に渉るは諸君に對して恐悚なれども併し諧謔も亦强ち不敬なりとして擯斥せらるることなくむば豈唯余の幸のみならむや諸君幸に微意の在る所を諒せよ

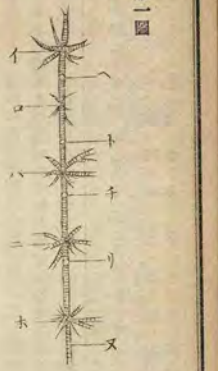
◉蠶兒の氣門新に二を加ふ

大日本蠶絲會特別會員　吉池慶正

空氣の流通は蠶兒の乾坤たる蠶室を繕造するに於て第一の要義たり又空氣の流通は蠶兒を飼育するに當り最も注意を加ふべき第一の要項なりとは吾人蠶業家の常に唱導する所なり果して然らば蠶兒と空氣とは如何なる關係を有するや又蠶躰内に如何なる機關ありて空氣を左有するやを深く研究して以て蠶兒の衛生上遺憾なからしむるは實に吾人蠶業家の責務なりとす依て聊か研究せる所のものを表白し大方諸君の參考に資し且つ教を乞はんと欲するものあり即ち他にあらず蠶兒の小氣門是れなり

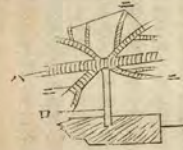
常に蠶躰の解剖上吾人をして怪訝に堪へざらしめしものは第一氣門と第二氣門との間にある氣管枝の構造にして他に在りては上下相互の氣門間を連接する大氣管枝間には脱皮の際に分離すべき接合點なるものの一箇所なるにも拘はらず特に此間にのみ二箇所を有せり若し此の如く二箇所ありとすれば蛻皮の時には兩接合點間の氣管枝は恰も洪水の際に河川の架橋は其兩端を流出せられ中央のみ殘留せるが如く蠶躰内に氣管枝の停滯を觀る理由なり造化豈に斯る惡戯を試むるものならんや必ず兩接合點間に於て一の潛匿せる氣門を有するならんとの想像は吾人の胸間を相往來して已まざりし玆に於てか本年九月十八日四化蠶の五齡のものを採り刀を研き腕を鋭にし手術を其間に施せり造化は寵を惜まず果然果然第一第二兩氣門の中央第二第三關節の境界に於て微細なる一氣門を發見せり依て酒精に浸し置き

第一圖

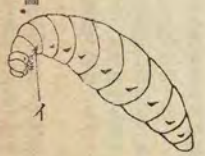


第二圖

第三圖



第四圖



第一圖は一個の縱走氣管枝の一部　イ第一、ハ第二、ニ第三、ホ第四氣門より多數氣管枝の出てたるを示す
ヘトチリヌは接合點の膨起せる部分
ロは新氣門の所在是より五本の氣管枝を出す
イは小氣門の開きたるを示す
ロは其閉ぢたるを示す
ハは毛

第二圖は小氣門所在の表皮斷片
イは皮膚
ロは特殊の構造を有する氣管枝
ハは縱走大氣管枝
ニは小氣管枝

第三圖は小氣門と氣管枝との連接
第四圖は齶層内に於て蛻皮せんとする蠶兒を採り瞬皮を剝き氣管枝を切斷したるもの
イは小氣門より氣管枝の出つる所を示す

たる春蠶及夏蠶を採出し實驗したるに皆同一なる氣門を有することを確めたり然らば是れより世人の記臆の上に蠶兒の氣門は正に二個を加へたることを吾人は斷言するに躊躇せざるなり（又蛄蟖を解剖せしに同一の氣門を有せるを見たり）

新氣門の構造　構造は頗る他の氣門と異なりて外面に剛毛を縫合せる障子板もなく其內部には氣門を開閉する戸狀のものあらず氣門の大は直徑僅に〇、〇九乃至十ミリメートル許にして之れより一條の長〇、五十乃至五十五ミリメートル許の氣管枝を出す其構造は他の氣管枝と異にして內層は螺腺狀をなさず縱線狀をなし甚だ强靱なり色澤は灰黑色ならずして白色なり而して其先端は蠶躰を縱走する大氣管枝に連絡す此氣門の開閉は卽ち此特異の構造を有する氣管技の伸縮に由るものゝ如し尙ほ此氣門の生理上の作用に就ても一二研究を試みたり依て其梗概を記さん

生理的作用（一）氣管の脫出　今や將に氣管を脫出せんとする蠶兒を採りて熟視せしに何れも此氣門より他に比して細少なる黑色線卽ち氣管枝の舊皮に附着するを認めたり依て更に其半脫皮の際に舊皮下に於て氣管技を截斷せしに明かに此微細の氣門よりも氣管枝を脫出することを指示せられたり（余は繭層內より蠶兒を取出し斯の如くして多數の標本を製せり第四圖は卽ち是なり）然れば最早や此氣門は他と同じく蛻蛻の際に氣管枝を脫出すること疑ひなき事實となれり（二）呼吸作用　此氣門は呼吸を營むや否やに就ても試驗せんと欲し四化蠶の老熟せるもの各三頭宛を採り種々の方法を以て丁字油を塗抹し其死期及成繭期の遲速を調査せり今左に其結果の一部を拔萃し參考となさん

種別	斃死までの時間	成繭までの時間
兩側の氣門を悉く油塗せしもの	一七時三〇分	—
兩側の氣門十八個を塗り小氣門は除きたるもの	七二時〇〇分	—
氣門を塗抹せざるもの	—	三六時
小氣門を塗抹せしもの	—	三七時

（備考）其時間は悉く三頭平均數にして成繭時間とは蠶兒の絲縷を吐き終りたる時を言ひ斃死時間とは蠶兒の背脈管皷動を停止せる時を指したり

是れに由りて之を觀れば小氣門を塞ぎたるものと否とによりて其死期に五十四時三十分の差異あり又小氣門のみを塗抹したるものは其當時にありては多少擧動不活潑にして成繭時間も亦一歩を讓るを見たり然らば此氣門も夫れ或は呼吸を營むべき乎然れども此試驗は材料も寡く方法も到らざる所あり吾人自らも隔靴搔痒の歎なき能はず故に更に春陽駘蕩の候を期し正確なる試驗を施し世に紹介する所あるべし

寄書

北村鏡治郎氏の營繭說に就て

京都府何鹿郡綾部町
大日本蠶絲會員　山本竹藏

會員長野縣北村鏡治郎氏は會報第六拾四號寄書欄內に於て實驗上より蠶兒の營繭狀態を記述せられたれども予の見る所と少しく異るものあり北村氏の觀察精確にして予の觀察疎漏なるか予の說是にして北村氏の說非なるか敢て批評を大方の研究家に問はんとす

北村氏が蠶兒の營繭は前進しつゝ吐絲するを以て一般の法則なりと觀察せしは正し予も亦常に退歩しつゝ吐絲したるを見たることなし然れども氏が吐絲の交叉せる塲合に護謨質の爲めに固着して悉く絲類を生ずべしと斷定せるは誤れり（護謨質卽ち「セリシン」と繭の解舒との關係に就ては從來唱導せる一般の說と予の所見とは少しく異れり他日之を敍述するの期あるべし）而して氏が此誤謬に陷りしは職として其吐絲狀態を蛇行狀なりと見誤まりしに由る蠶兒が一般の吐絲狀態は決して蛇行狀に非ず果して蛇行狀ならむか豈に生絲に輪類及び輪類の種々の變形を生ずるを憂へむや去り乍ら從前用ひ來ら

るゝ吐絲狀態の模型圖即ち氏が第一圖に擧げたるものゝ如き（あさきゆめみし のみの字を連續せる如き形）も亦抑も誤れるものにして普通吐絲狀態に於て蠶兒が位置を換ふる場合の外は一交叉點と次の交叉點との距離の比率斯の如く廣きものにあらず即ち殆と西洋數字の8字を橫置せる如き形を爲すものなり故に輪繭の正形は8字形なるを常とす北村氏及び其他の讀者若し是を疑はゞ故に蠶兒が營繭の時期に實驗するを要せず有り合はせの繭を煮て徐かに繰り解き試みらるべし最も予は故意に黑色紙上に吐絲せしめたる標本をも所持すれども何分茲には之を示す能はざるなり

以上略陳せる所によりて北村氏の說と予の所見との異れる點は明かなるべし事や素より瑣末なりといへども思ふて言はざるは不信切なり故に敢て公言して大方の批評を煩はすこと爾り

附言　吐絲狀態にみ字を連續せる形のみを圖せるは獨り本邦のみならず西洋の蠶業書にも見受けたり右は說明の便を慮りたるものか否か

◉清白養法論

神奈川縣高座郡海老名村
大日本蠶絲會員　大島正義

桑蠶の種類の中光澤純美にして類節極て稀れに纖維最も細くして强く且つ解舒の最も容易なるは原支那種類なる此淸白に如くものなし何故に此く純良なるやと云に其原因蠶兒の性質と繭の形體とに因るものゝ如し本邦在來の繭の形狀は大抵中縊れにして其縮れ方一樣ならず中程帶の如く緊殺せるを以て繰絲の際其煮へ方兩端は早く中程は晩く自然一樣ならず且つ蠶兒の繭を營むに當りて其絲のかけ方の如く絡交狀をなすを以て終に繭の縊れ目邊より類節を生じ解舒も自から惡しくなるの傾きあれども此種類は繭の形ち中脹れにして兩端尖り縞紋一樣にして絲のかけ方の如く次第に輪狀を重ねたるものなれば煮へ方亦一樣にして類節を生ずるの憂なし其上蠶兒は最も强壯活潑にして吐絲至りて速やかなるものなれば解舒の良きも亦道理にして決して本邦在來種の企て及ぶ所にあらざるべしされば支那地方の蠶絲及養蠶は如何と云ふに蠶業至りて幼稚にして蠶種は病毒多く養法は拙劣にして繰絲の法も亦至りて粗雜なるものなれば斯る原料あるに拘はらず七里絲廣東絲等の劣等なる製絲を產出しつゝあるに過ぎず我國の大幸と謂ふべし近來西洋人が上海近傍に於て蒸汽器械を設け此原料によりて精細なる良絲を製出せるは異日斯業の勃敵たるに至らんこと疑を容れず

さて此種類は斯の如く純良なるものなれば養蠶の法は如何と云ふに其養法を得ざるに於ては中〻六夕數普通本邦種を飼育するの方法を以て之に施す能はず强壯なるが如くにして又虛弱なるが如く殊に一二眠の頃に於て最も病害に罹り易し蠶兒の不齊は其初めにして夫より不眠蠶を出し終に膿蠶を出すに至る余の始めて之を飼育せるや病毒多く蠶兒極めて不齊にして眠起を定むること能はず四眠に至り始めて休桑をなすを得たり爾來專ら養法を講究し溫度を加減し方法を區別して之を試み又他人に敎へて之を飼育せしめ終に此種類の養法は專はら乾燥を主とし特に眠起の際最も注意を要すべきことを發見せり由りて此方法に據りて之を飼育し又各人に敎へて之を施さしむるに養法至りて簡易にして蠶兒頗る活潑而して收繭反りて良好なり

抑も余の此養法を發見せしもの多年の經驗に出つると雖も其理由とする所なしとせず此蠶兒は活潑にして貪食の性あれども多くさりとて給桑の度を多くし又は過度の厚掛等をなすときは俄かに虛弱に傾むくの狀ありて終に不眠蠶を出すに至る在來種と雖も此不眠蠶を出すは水分の多きとき又は溫度の不足せるときに發するものなれば此蠶の此病を起すは則ち濕氣より來りたるものに外ならず但在來種に比して其之を厭ふもの甚しきのみ大凡動物の其地に棲息して繁殖せるもの其氣候と其習慣とによらざるなし此種類の多年生々し來りたる支那大陸と我國との氣候を比較すれば我は四面環海空氣の中常に水分を含有すること多く彼は土地廣大にして常に乾燥し易く加ふるに彼の養法たる給桑も多からず手數も費さゝる簡單のものなれば多年此氣候に呼吸し此養法に慣れたる此種類を俄かに我國に移して濕潤

なる氣候に遇はしめ周到なる手當を受けしむるに當りては大に其習慣と齟齬し反りて其性質に適せざる所あらん是往々我養蠶家が一意十分なる收繭せんと欲して失敗に至りし所以なるべし余は此理に考へ及びしを以て勉めて蠶座を乾燥せしめ給桑毎に間斷あらしめ中指桑等を與ふることなく專ら簡易の養法を施せしに果して其性質に適合せるものゝ如し嘗て聞く我政府より沖繩縣に派遣せられたる蠶業視察員高橋信貞君其養蠶を視察せられしに蠶座一夜にして黴菌を充てしことありと又聞く本年清國に派遣せられたる視察員松永伍作君彼地方を巡遊し其蠶業を實見せられしに彼の養蠶の養法は簡單にして蠶沙寸餘を堆ふすと雖も蠶座常に乾燥して降雨の際尚ほ濕潤の狀なく曾て黴菌を生ずることなしと是大陸の氣候島國に異なる所以なるべし然れば則ち余の此理を推論せるもの其空想に出つるにあらざるを證するに餘りあらんか若夫れ養法の順序は別に一小冊子となし詳論する所あるべし

●日本蠶業改良意見

宮城縣伊具郡館村間矢
大日本蠶絲會員　山本　甬

大日本蠶絲會報第五拾六號雜報欄に目を注ぎたる人は本多技師が官命を奉じ米國に渡航し尋で歐洲を巡廻したる蠶絲業視察調査の要領なるものを掲載しあることを知らん之を讀むもの又曩に米國駐在帝國領事館の再三報告せられたるものと同一なることをも知るべし年移り人替りて調査の事項を同うしたる事實より推すも我蠶絲の外國市場に於て如何なる程度に浮沈し居るやは既に識者の辯明を俟たずして想察するに餘りあることゝ信ずるなり而して之に對するの策としては我當業者の意嚮は如何か其大躰に於ては種類の一定器械の整理と云ふに過ぎずと雖も事實に於ては銘々個々種々區々の工夫を凝し局部支岐中最も捨へ易き繭の形狀に傾向し或は發明となし或は考按と云ひ試驗場員の試驗談に髣髴として未だ生絲と云ふ本業中の一大眼目に及達することなきが如く種々の名稱を附したるの結果三百餘種類の蠶繭を算へしむるに至りたり然れとも是等のものをして種類となさんか其數殆と飼育者の數と匹敵し枚擧に遑あらざること明かなるべし何となれば蠶の外形を變ずること一再にして止まらず變形のものを努めて飼養したらんには一種異樣のものを得べしと雖も又忽ちにして變體するにあらずや之に面貌の異なる如き人意を以て奇を需めたらんには其所謂種類なるもの幾萬に達するや計り知るべからず世に最も有名なる赤熟、青熟、小石丸、又昔等の如きも甲乙地又は製種者の異なるに從ひ多少繭形繭層の相違あるのみならず其質として維持すること至て困難なるは業に當るものゝ能く知る所なるべし而して又昔の如きものを原質と假定し望みを屬して甄別したらんには五六年間にして在來の種類なるものを得んこと容易ならん今や變種の素性の重なるものを述べんに彼の純白種なるものは其名の如く白き種にて白巣の稍々黃色を帶びたるもの熊蠶と云へる眞黑なる蠶は赤熟撰定の最も詰めたるものより出で赤毛蠶は其種催青の際紅色を帶びたるものにて重に青熟より出づるが如し姫蠶の如き無斑紋の蠶は何種を問はず停めんとして止むる能はざる速變のものなり又青白と稱したる黃繭は黃色繭を成す野蠶の雄蛾を掛合せたるもの繭形の大を撰みて上簇期の後るゝものは大繭となり小にして進むものは之に反す縮縐の粗大なるは粗大にして細小なるは又細小なり中絞るもの圓錐形なるもの皆其形狀に由りて努めたる擴張に過ぎざればなり玆に明治十二年半ば孵化したる佛國渡來の蠶種を得て飼育したるものありしに金光燦爛たる黃色繭を得たり當時は之を見るの始めなるより珍重して飼養を繼續したるところ明治十八年の收繭中稍々白色のものを厚層豊大目を喜ばすに足るものあるを以て勉めて白繭を得るの手續きをなしたるに明治二十年に於て純白のものを得たり依て予は黃繭中の逸物となし元產國帝王の名を採り之に拿破崙と命名したるもの或は伊太利と稱へ今尚ほ諸所に散在す然るに偶々土耳古パクダ種なるもの渡來の當時之が雄蛾を掛合せたるに忽然として純黃色に歸し去りたることあり依て是等の變體中生絲に最も適當のものは比較上蠶體小に繭稍々薄く縮縐又稍々粗にして蠶體繭形とも人爲の好奇に應ぜざるもの卽ち是なり我蠶界の驅逐に逢ひ今や其影だに止めざる如き元性に

復したる一名姫蠶の如きは蠶兒强健にして食餌の不足なる經濟上飼育上最も利益あるものなれども我國慣習の久しき故にや反て肥太厚層のものを好み時々失敗を蒙ると雖も尙恬として顧みざるものゝ如し夫蠶繭の一齊肥太厚層のものを見る快は即ち快なりと雖も蠶性の玆にあらざるを如何すべき蠶とても天造の一機關たり其體中の機官に欠くるところあらんか動物の動物たる働きを爲すを得べけんや蠶の繭を營む其蛹身を保護するの利器に過ぎずとは皆人の稱ふる所にして何ぞ身に餘るの重量を要せんや蠶靈或時予に就て歎き訴ふることあり曰く蠶業は如何に絲量を得るが目的なればとて天賦の絲腺に人爲的の膨大を加へられ苦悶の中に繭は成したるも蛾となりて出づるに力なく竟に繭中の鬼となりたり去るにても蠶家は未だ是等の繭を以て美麗となす豈支那の國風婦人の足を人爲的に縮小し美人と呼ぶと何ぞ擇ばんとて左の都々一を物したり「支那の女と日本の繭は足と形ちで苦勞する」と見て驚き覺むれば予が原繭撰擇場に於ける一睡の夢なりき本多技師又曰ひたるに非ずや我蠶種の雜駁を救濟せんため伊太利に良種を需めんとし伊國反て隣邦の支那に仰がんとするの意あるを聞知し望を轉じて原種は支那に由らざるべからずと爲せりさればにや松永先生の渡淸となり町田菊次郎等の諸氏淸國に漫遊したれば極めて良種の渡來することもあらん然れども支那は近來百尺竿頭一歩を進め世界に雄飛するの上等生絲國視せらるゝの上より觀るときは蓋し大繭厚層のものはなかるべしと信ず既に渡來し居るものは生絲に好適なる原料には相違なきも風土に慣熟せざるの故にや飼養中軟化病に斃るゝもの夥多なりとす是に由りて之を觀るも良種の新輸入後完全のものとするまでは少くも五六年間を經由せざるべからず加之日本蠶業眼なるものが絲腺の膨大に努むることあらんか又忽ちにして變轉し所謂種類の播殖するに止まることなきか支那の進歩は支那人の企圖するものにあらずして外國人が精良の器械を輸送し善良なる原料に其技術を實行したるのみ故に上等生絲の出所を尋ぬるときは上海近傍の一部に限るが如し然れども利を見るに敏活なる支那人外國人等のことにしあれば早晩水の底くきに從ふ

の勢を以て國內に蔓延するならん一大商敵たる彼れにして斯の如し豈我に於て寒心せざらんと欲するも得べけんや而して彼の原料は我文明的雜駁のものにあらず一意千行蠶を敬ふ神の如き的の古風を維持したるものなることは我實業の上より推し彼れが製絲業の迅速なる發達より究むるも强ち失當の言ならざるを信ずるに足るべし我製絲家たり養蠶家たるもの自身曰はずや四五十年以前のものに比し蠶は飼育至難に成繭又不良なりと他に損害すべきの理由ありとするも當時の人情を想起したらんには蓋し思ひ半に過ぐるものあらん今や支那の良種にもせよ現時の我蠶業眼なるものを以て左右することあらんには漸く變じて中絞れともならん一齊なる大形ともならん厚層ともならん長纖維ともならん數量も多收し絲量も多かるべし實に見事なるを以て迷を生ずる無理ならぬ次第とは謂つべきも更に其半面より見るときは桑葉に於て三割餘を增食し蠶には斃死するもの多く生絲に於ては製造に隙取り屑絲を多出し光澤を失ひ「デニール」を增し加之毛羽立多類切斷等不愉快なることより外國機業家の忠告となり領事館の報告となり視察員派遣となるもの皆此にあつて存す近時赤熟の名聲を失墜したるもの此理に外ならざるなり以上陳ぶるが如く蠶の肥太なるは我國土に於ては實際上虛弱にして成繭一顆の比較例言は纖維一千米突の大繭を得たりとするも其口末に於て切斷すること數十回なるを以て端切纖維の製絲線條に附着しあるは何人と雖も目擊する所毛羽立等の苦情ある他の攻擊あつて始めて知るにはあらざるべし然り而して其切斷十回あるものと假定したらんには平均百米突に過ぎずして元來五百米突の小繭に比し其長さ及ばさること殆ど五分の一なり何ぞ四口揚げ六口揚げなる快速の器械を用ふることを得べけん搗て加へて纖維の切斷は製絲をして五條或は四條となし終始聯絡繼續することは如何なる名工女と雖も到底爲し能はざるの難事とす故に伸度を失ひ切斷し又暇取る爲めには膠質を乾固し絲線の密着を欲き其結果割け絲となり延て機業の上には繰返しの時四口揚り三口揚りの困難を來し屑絲を續出し竟に縱絲とはなし能はざるとの非運を招くに至る彼の伊太利の如き吾も人も許したる製絲

の上等國が支那生絲の發達と同時に原種を之に仰がんとする又故なしとせんや故に我國蠶業の改良を計るもの種類の撰擇も然るべし精巧緻密の器械も必要なるには相違なしと雖も第一着に蠶家の好奇心を一掃し蠶は日本在來の強健なるものを養ひ生絲は疑を存して製造し販賣するの念慮を去るは最も緊急の要點たることゝ信ずるなり敢て江湖高識の垂教を乞ふと云爾

●製絲の成績

山梨縣東山梨郡上萬力村
大日本蠶絲會員　川合菊次郎

本年三月十七日奈良縣奈良倶樂部に於て實業大演說會を開き農事試驗場幾内支場よりは農學士三人及該縣農事試驗場長菅農學士、岐阜縣名和靖氏其他該縣下の各組合總長等の演說あり其日小生も蠶業革命てふ題にて講話し繭形の改良を絕叫せしが苟も其事を實施せざれば何の效も立たざるを以て角又蠶種二枚を同會主催者なる縣農會に寄附して試驗飼育を望みしに縣農會よりは之を蠶絲業取締所に交付し同所屬なる奈良縣高等養蠶傳習所に於て飼育せしめられしに飼育中の結果は良好にして又昔、小石丸に比し給桑二回を多くし收繭は反て多量絲長も他種類に優り何れの點より見るも在來種より優位を占めたることは七月十五日傳習所卒業證書授與式の節同所教師清水義雄氏より詳細報告ありたり而して其收繭は蠶絲業取締所より之を高田製絲所に託して製絲せしめ又其生絲は神戸生絲檢査所に送り檢査を受けたるに左の成績を得たれば記して以て當業者參考の一助に供せむとす

製絲成績（高田製絲株式會社調）

又昔（ロ）(イ)	乾繭一升量	乾繭一升頴數	工女渡辨	新口四粒付（デニール十三目的）	解舒	絲量	層物
	三八、五級	二七七	七七、級	一四、	純良	二五、五級	生皮苧
							湯上り
							生皮苧
							湯上り
							三二、級
							三、
							三〇、
							三、五

生絲檢査成績（神戸生絲檢査所）

小石丸（ロ）(イ)	乾繭一升量	乾繭一升頴數	工女渡辨	新口四粒付（デニール十三目的）	解舒	絲量	層物
	三七、五級	二七五	七五、級	一三、	純良	二三、四級	生皮苧
							湯上り
							生皮苧
							湯上り
							三、
							三〇、
							三、五

角又（ロ）(イ)	乾繭一升量	乾繭一升頴數	工女渡辨	新口四粒付（デニール十三目的）	解舒	絲量	層物
	三五、〇級	二三七	七〇、級	一三、	純良	二四、五級	生皮苧
							湯上り
							生皮苧
							湯上り
							三二、級
							二、
							三〇、
							三五、

目次／項目	イ	印	ロ	印	計	平均
又繊度（デニール）	三二七二	三二七二	三二七二	三二七二	三二五四	三二五三
強力（グラム）	三六、八	三六、〇	三五、九	三五、九	三五、八	三六、
昔伸度	二七、六	二五、五	二五、〇	二五、〇	二六、三	二六、
五百メートルニ對スル額	大〇	小一一	輪六九	大二	小一九	輪一四一
切斷	〇			一		

目次／項目	イ	印	ロ	印	計	平均
小繊度	三二、三五	三二、八九	三二、〇七	三二、八二	三二、四七	三二、四五
石強力	四六、	四五、	四四、	四四、	四四、	四四、
				二	大三〇	小二〇九
				一		

目次	丸 伸度	五百メートルニ對スル類			切斷
		大	小	輪	
イ	二五、一	〇	一八	二七六	〇
	二三、三				
	二六、三				
	二六、〇				
	二〇、四				
ロ	二五、八	〇	一〇	一〇八	二
	二六、三				
	二〇、八				
	二五、四				
	二四、三				
計	二四、三	〇	二八	三八四	二
平均	二五、四				

目次	項目	角又 纖度	角又 強力	角又 伸度	五百メートルニ對スル類 大	小	輪	切斷
イ	印	一二、七二（デニール）	四五（グラム）	二〇、四（分）	一	九	五九	〇
		一二、〇一	四五	二一、四				
		一五、六二	四五	二三、四				
		一五、六二	四五	二三、四				
		一五、九七	五〇	二四、二				
ロ	印	一一、九五	四〇	二〇、六	〇	八	四七	〇
		一一、八一	四一	二四、三				
		一三、五五	四〇	一八、三				
		一五、〇五	四〇	二三、三				
		一五、〇五	三一	二〇、六				
計		一六、七三	四〇	二七、六	一	一七	一〇六	〇
平均		一三、八九	四〇	二二、八				

各種生絲練減検査成績

種類	符號	原量	無水量	練減後無水量	練減量	練減百分比例
小石丸	イ	三六、七五〇（グラム）	三二、五五〇（グラム）	二七、〇〇〇（グラム）	五、五五〇（グラム）	一七、〇五（分）
	ロ	三八、四〇〇	三四、〇〇〇	二八、〇〇〇	六、〇〇〇	一七、六〇
又昔	イ	三六、六〇〇	三二、四五〇	二六、六〇〇	五、八五〇	一八、〇三
	ロ	三七、八〇〇	三三、五〇〇	二七、五〇〇	五、九五〇	一七、七六
角又	イ	三九、八五〇	三五、三五〇	二九、六〇〇	五、七五〇	一六、二六
	ロ	三三、八〇〇	二九、八五〇	二四、九〇〇	四、九五〇	一六、五八

検査成績概評

（一）色澤は殺蛹の適否用水の良否に大關係あるものなれば單に製品たる生絲を一見して以て原料たる繭の如何を推定すべからず然れば玆には未製品たる過去の繭には論及せず只々既製品たる現品の生絲に就て敢て之が短評を下せば本品は稍々緇色（ししよく）を含み概して佳良なりと云ふべからず今假りに其等級を付せんに素より著しき等差あるものにあらずと雖も第一は角又、第二は小石丸、第三は又昔なり然るに練減後の結果は角又第一に位し又昔之れに次ぎ小石丸又之れに次げり而して小石丸は稍々緹色（ていしよく）を呈せり

（二）纖度は高田製絲場に於て繰絲せし成績に徵するに悉く四粒付とあり之れに由て平均纖度に就て繭一顆の纖度を算出せば小石丸は三「デニール」八一又昔は三「デニール」三にして角又は三「デニール」二二なり今試みに本品に就て絲縷（しる）を分解し繰絲せし繭の顆數を求め平均纖度によりて繭一粒の纖度を算出せしに小石丸は二「デニール」六五又昔は二「デニール」六九角又は二「デニール」七七にして何れも尙ほ纖度太きに失し細絲を製するの原料としては共に適當のものにあらざるなり

（三）强力及伸度は佛國絲及日本良絲（森田眞の調査に係る）に比較し其優劣を示せば左の如し

種類	强力 佛國絲 優	强力 佛國絲 劣	强力 日本良絲 優	强力 日本良絲 劣	伸度 佛國絲 優	伸度 佛國絲 劣	伸度 日本良絲 優	伸度 日本良絲 劣
小石丸	〇（グラム）	―（グラム）	―（グラム）	八（グラム）	―（ミリメートル）	―（ミリメートル）	六二（ミリメートル）	―（ミリメートル）
又昔	―	四	―	一一	―	―	七四	一六
角又	一	四	―	一二	―	―	七八	一六

元來日本絲は佛國絲に比較すれば强力に優るありて伸度に劣れるは殆ど通例とする所なり然るに本品の如きは伸度は勿論强力に於ても劣るありて優るなく殊に日本良絲に比しては其强力著しく劣れるを

見る

(四)額は五百「メートル」に對し小石丸は四百以上又昔は二百以上角又は百以上にして悉皆多しと云ふべき部類に屬せり抑も額の生ずる所以は種々ありて其起因固より一にして足らずと雖も就中形狀の如何は其主なる原因なるが如し現に本品に就て其檢査の成績を見るも最も小石丸に多くして比較的角又に少なき結果を呈せり又嘗て本所に於て兵庫縣及鳥取縣の請求により彼の餘杭種の複製に係る蠶種により得たる繭を以て繰絲せし生絲を檢査せしことあり其成績五百「メートル」中一は四十二個にして他は僅々五個に過ぎざりき特に茲に附記して以て聊か參考の資に供す

(五)本品に於ける練減量百分比例を以て里昂蠶絲檢査所なる練減檢査の成績に比較せば左の如し

項目 / 國名	小石丸		又昔		角又	
	多	少	多	少	多	少
佛國	—	一、三七	—	〇、八〇	—	二、二七
伊國	—	二、五六	—	一、九九	—	三、四六

右表の成績に據れば練減の上に於ては伊佛兩國の生絲に比して皆悉く優る所あり而して本品中練減量の最も少きは角又にして最も多きは又昔なり

◉問答

◉雄性を藉らざる蠶兒の發生に就き質問

秋田縣平鹿郡醒井村　大日本蠶絲會員　山田吉次

如何に下等動物なりと雖も雄性を藉らずして發生するの理なかるべし（但し動物學上動物植物の區別判明せざるものは此の限りにあらず）然るに余が近鄉に守屋某なる蠶業熱心者あり蠶種を製造するに當り雄蛾の不足を生じ已を得ず交尾せしむると能はずして採種せしに翌春發生の時期に當り毫も他種と異なることなく一齊に發生せしかば試驗にもと飼育したる飼育上及其結果に於て寸毫も差異なかりしと余此の語を聞き怪訝に絶えず西ヶ原蠶業傳習所出身者原安太郎氏に質せしに氏も亦不可思議なることゝし松永伍作氏に質せしに斯かる理なかるべしとの最も簡短なる答辯なりしと此に於て余の疑團は益々胸裏に朦々たりき依て昨年數羽の雌蛾を出殼其のまゝ紙に移し產卵せしめ今春發生の時期に當り一粒の殘存するものなく發生したるを認めたり余は再び怪訝に絶えず此に於て博學多識の士に明說を乞ふ

答

大日本蠶絲會技藝會員　理學博士　佐々木忠二郎

大約蠶蛾は雌雄交尾し然る後產みたる卵子にあらざれば孵化せざることは尋常の道理にして雌蛾の雄蛾と交尾せずして產みたる卵子は大抵後には潰れ卵となりて孵化することなし然れども蠶蛾の雌雄は雄蛾と交らざるも其卵子は能く孵化せりと云ふことは數十年前獨逸の碩學シーボールト氏の既に實視せしところなり尤も昆蟲類の中には雌は雄と交らずして產める卵子にして故障なく孵化するもの敢て尠からず然らば蠶蛾の雌の交尾せずして產みたる卵子の孵化するも敢て怪むに足らざるなり山田氏は偶然シーボールト氏と同樣の觀察を遂げられたるものと云ふべし即ち雌蛾の雄蛾に接せずして產みたる卵子の孵化する事實を動物學上之を單爲生殖と云ふ

◉蠶種不發生に就き質問

東京府西多摩郡原小宮村　大日本蠶絲會員　白石三作

左の手續を以て蠶種を貯藏し置きたるにも拘はらず催青のまゝ孵化力を停止し全く斃死し終りたり是れ何等の原因に由て然るや現物を添附して質問す

該蠶種は客年十一月中製造人より受取りたるまゝ天井下に吊し置き本年一月二十三日を以て寒曝をな

し爾後紙貼行燈へ挿入し夫れより貯藏器に收め最も寒き箇所に置き二月下旬土藏へ移し四月十七日に至り貯藏器より取出し行燈のまゝ室内に吊し下げ漸次目貼を切離し同月二十六日に至り蠶室に移したり然るに同貯藏器へ收め置きたる他の分は悉皆發生したるも獨り該蠶種のみは稍催青のまゝ孵化力を停止し全く斃死したるなり唯發生したるは中心に出殼痕跡を見認めたる少許の部分のみなりき

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　河原次郎

蠶種は思ひ掛けなき些細なる事情の爲めに其孵化力を失ふものにして質問書中に説明せられたる所のみに據りて其理由を確答すること能はず添附せられたる現品を檢査するに病毒の爲めに非ざるを知る十一月中製造人より受取られたるなれば天井等に吊し置かず直に箱に入れて寒冷なる所に納め置かるべかりしに而して他の蠶種は能く發生したるにも拘はらず其中一枚特に斃死したるは無毒なるも頗る虛弱なりしか或は運搬の途中に故障ありしか或は卵面、器の内面に接して呼吸を妨げ且つ温度の變に感ずること烈しかりしか或は他の蠶種よりも早く發育したるにも拘はらず目貼りを切離すと遲かりしが爲めなるべし貯藏器より取出すには遲くも發生より二週間前にして火力を用うるときは常に室内を濕潤に保つべし否らざれば爲めに發生を害すること少しとせず

●春蠶種不時の發生に就き質問

山形縣西置賜郡十王村　大日本蠶絲會員　佐藤慶藏

余の購求せし春蠶種製造者の養蠶は發生後飼育一齊頗る强健にして稀なる好結果を得たるものより採種し其採種は七月十八日なりしに其後二週間を經て少しく再出發生するにより清涼なる室に吊るし置きしに蠶種の色澤全面異狀なし然れども其後一二頭或は三頭今に至るも尚ほ發生せり是れ如何なる原因にして又其蠶種の善惡は如何敎を乞ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　河原次郎

好結果を得たる春蠶の繭より採種したるもの二週間を經て點々再出するは原種の性質已に夏蠶に復歸する傾向を生じたるか或は採種後再出を催す取扱をなしたるものなるべし此の如きものを飼育して豐作を得ることなきにあらざれども其繭質は概して劣等なるを以て善良なる蠶種とは謂ひ難し

●蠶の元祖に就て質問

廣島縣廣島市三川町　大日本蠶絲會員　平田獅子太郎

蠶の大祖は同一のものにして漸次性質を異にし來りたりと云ふ説多し然らば二化以上の夏蠶が抑も元なるか春蠶が元なるか何れなるや且つ理由あらば併せて敎示を乞ふ

答　大日本蠶絲會技藝委員　農學士　石渡繁胤

家蠶は西部亞細亞の原産にして春蠶夏蠶共に同一の祖先より出でたるものなり家蠶は人爲淘汰の結果今日の如きものとなり春蠶夏蠶（二化するもの）何れを元なりと定め難しと雖も一化し二化し又多化するは氣候の感應によるものなるべく夏蠶にありては其二化の性質を傳へたるものなり

●火力に就て質問

神奈川縣濱名郡有玉村　大日本蠶絲會員　石川勝五郎

濕潤地と乾燥地に由て蠶室に供用する火力を異にするか又は同じきか

答　大日本蠶絲會技藝委員　木村九藏

火力利用の主眼とする所は第一空氣の流通を滑かならしめ、第二濕氣の豫防に備へ、第三の目的は冷氣の侵襲を避くるに供す是れ余の長く實行し一般に唱道しつゝある所なり抑ゝ蠶見の生理に適するは乾燥地にして濕潤の地は素より望を措かざるなり盖し濕氣の過剩なるに拘はらず之に炭火を加ふるは甚危險にして往ゝ蒸熱を釀し自然諸病を發するに至り却て害用に歸するの憂なきにあらず然れども其障害少からしめんとせば平家作りとなさんより寧ろ二階構造と爲し階上を以て育場に充つるに如くはなきものと信ず而して成るべく室内は陰鬱ならしめず熟練の技能を以て風土及乾燥を考察し能く火力の利用を計らば庶幾は不結果の憾みなきを得ん乎

統計

明治二十九年蠶絲、眞綿及蠶卵紙産出府縣別表（農商務省の調査に據る）

道府縣	製絲戸數		生絲		熨斗絲	玉絲	屑絲及屑物	眞綿	蠶卵紙	
	製造所	自宅	器械取	其他					製造戸數	製造枚數
北海道	一〇	九六	五五六貫	二〇三貫	一〇〇貫	三三貫	一三六貫	二〇三貫	五四二	一八、一二三
東京	三五	一三、九六六	一〇、〇九五	六四、〇五八	五、六三〇	三、三四七	四、九九九	三三七	一九六	一六、七三五
京都	一七九	九、五九二	一六、九六二	八、三八二	一、六〇〇	二、三二九	五、六八二	四七四	五三九	五〇、五七五
大阪	二	六九〇	二、四七二	三九〇	一二六	四七	四〇七	二〇	一二六	二、一六〇
神奈川	五四	一〇、八九五	九、七〇六	一九、六〇九	四、四三七	二、〇四四	五、四三五	六四五	八七	六、八五四
兵庫	九七	一一、二五四	一七、一〇四	一四、一九六	二、八五五	二、六〇五	六、一〇四	一、八六五	八四五	六〇、六五七
長崎	七	三、八九五	五〇五	七〇六	六三	九六	一八五	一〇三	三三五	二、四九八
新潟	一二八	一三、五五五	一四、八七〇	一九、九七六	一〇、八六二	三、五六八	五、八六八	一、七二九	二、三九六	四五、七四七
埼玉	三五	一九、六九八	一一、三二二	四四、一六四	一六、三八二	六、三八八	一三、五九〇	一、九五〇	三、八八六	一九六、五六五
群馬	八五	三四、五四三	三九、五六七	一四七、五三五	一四五、三五〇	三、三九七	一四、三四七	四、〇三四	二、一九六	二八七、〇三三
千葉	四八	二、六八二	五、八二七	一〇、六四三	一、五五五	九、五四三	二、四八五	六八四	七二〇	一三、九三六
茨城	五〇	一、六二〇	一〇、〇五八	八、九三九	二、七二七	七二四	四、一七四	一、三七八	四三三	三〇、四九七
栃木	四四	二、五七五	三、九二八	六、六八二	二、一七一	七二〇	一、〇二九	六七二	一、〇〇一	五七、三三七
奈良	一七	九五九	一、四四一	四四七	一〇五	九五	二四六	四五	一、〇一〇	九、三九二
三重	一三八	一、九二四	一六、三六五	一、五三二	一、一四四	八二八	三、三五五	五五五	一、五八八	四三、四八五
愛知	一七八	二、二三三	三八、〇一二	五、〇四五	一、三五一	四、一九九	九、五五四	一、一九五	一、九七五	四三、五六〇
靜岡	三九五	三、六三四	八、六六六	七、二六〇	七一五	八四三	八、八八四	六三四	七五八	三五、五九一
山梨	二二四	二一、八六七	五五、八八〇	一三、五六〇	二、三二八	一、八六三	二〇、六八四	二、〇四八	二、一〇四	五八、二七四
滋賀	五二	一六、一六五	三一、七六五	一八、一〇六	二、〇〇一	二、九七七	六、五六四	四、六七三	八〇三	五三、五三七
岐阜	一、〇四五	五、五七一	五八、五六二	四、七三九	一、一九四	三、五一五	一五、一五〇	二、三三一	六八六	二六八、〇八五
長野	八八〇	三三、九七五	三〇三、三五五	二〇、六六六	一三、八五五	六、六五五	六〇、七五五	七、九三五	四、一九八	一四七一、九六八
宮城	三〇	一七、二四九	一〇、一七八	三五、三六四	五、五三七	一、八〇〇	四、九五四	二、三三〇	一、〇四九	七一、九五五
福島	四二	五五、五四一	二一、一三三	八一、三三〇	一七、三三〇	五、三三二	一二、三三八	五、七〇四	四、九二九	四七八、六三四
岩手	五五	八、六九四	六、八九二	一三、五九三	一、八二六	七三二	四、〇〇八	一、九九九	七八	一二、九一五
青森	一〇	六二五	二〇五	五九八	二七	四八	三一九	二七八	二七五	二、四七〇
山形	二四九	二四、二二二	一八、八六七	三一、六八二	四、〇〇三	七、〇八一	六、九九八	五、一一五	三、四八九	八九、九九五
秋田	一四	一三、四五六	九七六	九、四七一	一、六六八	九四九	二、六三五	一、六五九	一、二三四	一三、六三七
福井	四一〇	五九三	二一、八〇八	六、七四四	一、五九〇	二、四二五	四、三六四	五三四	五四三	四六、八五五
石川	七五	六、三三〇	一〇、二五六	七、一三五	七〇三	一、一一〇	一、七一五	一、三三〇	二一九	一九、九九九
富山	七七	五四二	一〇、一三〇	一、七五二	三〇〇	二、四二九	三、三九五	六四四	三六六	七四、六七五
鳥取	六〇	二、二三二	七、五八八	二、〇五六	七七三	一、三五九	二、三四〇	二八二	四四六	一四、五六二
島根	五七	五、五四四	一〇、五三〇	二、一九二	七九	五四七	二、九二九	七九四	五二〇	二九、三二九
岡山	三五	九二四	九、四四〇	八五〇	五五九	二九七	四、八九五	五〇〇	二六六	八、三八五
廣島	一八	一、二六九	七、二一六	一、〇四一	三五	一五四	九九五	六四	六三五	六、七五四
山口	八	二、三五四	一、六七七	七三〇	九六	七六	四三六	二六〇	六九五	四、六六九
和歌山	一六	六五四	六、一一五	一、五五六	四	六三五	一、五一六	三〇	八二	四、八九五
德島	六	一〇、五三五	一、六二五	一、八五七	五六	四三五	五九九	五六八	九九	六、六九二
香川	六	四〇三	八三五	八〇	六	二八	三三三	一〇	六六	一、四〇七
愛媛	二六	五、〇〇〇	二一、五七九	一、四四八	一、一一三	五三五	一、四八五	二六八	四七五	九、七〇五
高知	三	一三、五九四	三、八四六	五、四七〇	五七六	一、〇一〇	一、七五九	二三六	三二三	一七、八九七

	繭	生絲	屑絲類	計	眞綿
福岡	四、七三四	三、四六、六三	三、一六、八	一、四六、〇	一、三四四、六
大分	三、八、四六、八	二、九三、九	二、九二、九	一、六、〇四	六、九、六
佐賀	一	二、八七、二	三、六、六	二、九、六	一、七、三
熊本	二、六、六四	七、六六、〇	九、一四	二、六、六	一、七、八、七
宮崎	二、〇〇三	一、三三、三	一、三、九	一、三、三	六、一四、三
鹿兒島	二、六六、八	二、四六、三	六、六	一、三、三	四、〇、八
計	三、八、四六、八	三、四、二四	四、二四	一、六、〇	二、四、六、六
平均	四、四、六、九	三、四六、六、九	四、四、六、九	一、六、〇	二、四、六、二、九

昨二十九年生絲、屑絲類、眞綿及蠶卵紙の產出總額を前年に對比すれば其製造戶數は蠶絲に於て二萬千七百六十戶即ち六分を、蠶卵紙に於て二千百八十戶即ち五分を增加せしに拘らず其產額は一般に減少せり即ち生絲に百萬三千六百九十四斤即ち一割を、屑絲類に五十三萬九千三百三十八斤即ち一割二分を、眞綿に二萬二千五百五十六斤即ち五分を、蠶卵紙に十九萬二千二百四十九枚即ち五分を減少せり斯の如く減少せし所以は春期に於て降霜の被害甚しく隨て原繭の收穫を減じ延て蠶絲及蠶卵紙に影響を及したるに外ならざるべし今其一斑を揭ぐれば左の如し

生絲、屑絲類及眞綿累年比較表

年次	生絲	屑絲類	計	眞綿
自明治十九年至同二十三年平均	七九四、一三五貫	二八三、九三四貫	一〇七八、〇六八貫	五〇、二二四貫
同二十四年	一〇八七、九七六	四二六、四〇九	一五一四、三八五	五四、八〇三
同二十五年	一〇九六、〇八八	五四二、五四四	一六一八、六三二	五七、一二一
同二十六年	一二三三、五五四	五四四、一二六七	一七七四、八二一	五六、九五〇
同二十七年	一二九六、七八三	五九〇、八〇一	一八八七、五八四	五四、二五七
同二十八年	一六〇三、三一一	六九六、三七七	二二九九、六八八	六一、七七二
同二十九年	一四四二、七二〇	六一〇、〇八三	二〇五二、八〇三	五八、一六三
平	一一一四、五五三	五二〇、三〇六		五六、九八一

年次	內國產出 數量	內國產出 價額	外國輸出 數量	外國輸出 價額	產出輸出數量差	產出輸出價額差	內國存留	內國輸出	外國輸出
自明治十九年至同二十三年平均	四九五、八三九斤	三三〇、七八〇円	六三、二三斤	三六六六、九四四円	一六六六、二二斤	三四、四六円	三三	六七	六七
同二十四年	六七九、八三九	五三三、一四八	六三九、一三	三九、一四五	一四四、七四三	六七九、一四	三三	六七	六七
同二十五年	六七〇、五三〇	五四五、八四四	三七七、一四五	三六、八七六	一四四、六四四	六七九、一四	三三	六七	六七
同二十六年	七七九、七三三	五七三、三三六	六六、四一一	三四、四六六	一七六、六四一	六七九、一四	三三	六七	六七
同二十七年	八一四、八四一	五四四、〇五六	六四、一一〇	三〇〇、六八一	一七六、六四一	六七九、一四	三三	六七	六七
同二十八年	一〇〇一、六六四	五六一、八四一	六六、六六一	三四、一七一	一七六、六四一	六七九、一四	三三	六七	六七
同二十九年	八〇一、七四〇	五九一、八八四	六八〇、六四一	三四、一七一	一七六、六四一	六七九、一四	三三	六七	六七
平	八〇一、七四〇	五九一、八八四	六八〇、六四一	三四、一七一	一七六、六四一	六七九、一四	三三	六七	六七

（備考）平年とは二十八年より七箇年前に溯り其最豐、最凶の二箇年を省き殘五箇年を平均したるものなり

本年生絲の內國產出及外國輸出數量を前年に比すれば其產出は百萬餘斤即ち一割の減少なるも輸出は百八十九萬餘斤即ち三割二分餘の減少なり要するに本年は絲價の低落甚しく且つ米國向は大統領改選のため一般輸出を手控したるに因るものならんか其詳細左の如し

生絲產出及輸出累年比較

生絲及蠶卵紙の產出首要地方を擧ぐれば左の如し

府縣	生絲戶數 製造所	生絲戶數 自宅	生絲產額	府縣	蠶卵紙 製造戶數	蠶卵紙 製造枚數	蠶卵紙 一戶ニ付キ製造枚數
東京	二五	一三、九五六	七四、一五一貫	兵庫	八四三	六〇、六五七	七二
埼玉	二五	一九、六九八	五五、四八五	埼玉	三、八六六	一九六、五六五	五一
群馬	八五	三四、五四一	一八七、〇九〇	群馬	二、一九六	二八七、〇二二	一三一
愛媛	一七八	二、二二二	四三、〇五六	山梨	二〇四八	五八、二七四	二九
山梨	二二四	一一、八六七	六九、四六〇	滋賀	八〇二	二六八、〇八三	三三四

滋賀	五一	一六、一六三	四九、八九九	長野	四、一九八	一四七一、九六八	三五一
岐阜	一、〇四五	五、三七一	六三、四九〇	宮城	一、〇四九	七一、九五五	六九
長野	八九〇	二三、九七五	三二三、〇三九	福島	四、九一九	四七八、六二四	九七
福島	一四一	五三、三四一	九二、四五二	山形	三、四八九	八九、九九三	二六
山形	二四九	二四、二一一	五〇、五四九	富山	三八六	七四、六七五	一九四

●三十年九月生絲類及絹物類輸出統計（大日本外國貿易月表に據る）

種目	數量	元價	收稅
生絲	七一五、三二一斤	六、〇五二、九六九・七七〇円	一六八、九九四・六二五円
熨斗絲	七二、六四七斤	六六、二一四・八七〇	一、七一六・三〇六
屑絲	三九、七四八斤	二八、八六五・六〇〇	二八一・七二一
蠶紙	六枚	二〇・〇〇〇	一四二
類計	八二七、七一六	六、一四八、〇七〇・二四〇	一七〇、九九二・七九四
生絲繭眞綿類	（外國產）六三	六九・三〇〇	—
縮緬	一三五反	六九・三〇〇	—
羽二重	四〇、四二六反	五四九、一九六・八八〇	—
他の諸絹布類	二、一三一反	八、三八七・〇二〇	—
絹綿布類	一、〇七六反	一、四一六・四二〇	—
絹布手巾	八八、二二〇打	二七四、七七三・八六〇	—
絹製品類	—	二九、四一三・三五〇	—
計	四三、七六八反 八八、二二〇打	八六四、六九〇・三三〇	—

●三十年九月生絲類及絹物類輸入統計（同上）

種目	數量	元價	收稅
生絲繭眞綿類	一二六、四七一斤	五六、二九二・一〇〇円	二、八一四・六〇五円
縮緬	二九一段	三、二八一・八六〇	一六四・〇九三
絹紬	三、九六〇段	一一、一六二・五〇〇	五五八・一二五
繻子	八〇七段	一八、九四一・五二〇	九四七・〇七六
他の諸絹布類	六七五段	四、一九四・一二〇	二〇九・七〇六
絹綿繻子	二、一八六碼	一、二八四・一八〇	六四・二〇九
他の諸絹綿布類	九二四段	三一、二九六・二九〇	一、五六四・八一三
其他絹製品類	—	九三三・三〇〇	四六・六六五
類計	一二六、四七一斤 六、六五七段 二、一八六碼	一二七、三八五・八四〇	六、三六九・二九二

（備考）本年九月中の外國貿易通計は輸出千二百九十九萬四千百〇二圓七十五錢、輸入千八百二十五萬四千六百四十五圓八十八錢にして輸入超過五百二十六萬〇五百四十三圓十三錢なり

●自本年一月至九月生絲類及絹物類輸出累計

種目	數量	元價
生絲	四、三七〇、一六一斤	三三、九〇九、一八六・四三〇円
熨斗絲	八〇五、五一三斤	六五二、二一五・七三〇
屑絲	一、七六〇、九二六斤	一、〇七六、八四四・六二〇
繭	八三五斤	一、四九七・一九〇
空繭	六、九〇七斤	五、一〇〇・〇〇〇
眞綿	二四斤	六八・〇〇〇

屑眞綿	六二、七〇一斤	一四、六七二・〇〇〇
蠶卵紙	六枚	二〇・〇〇〇
類計	七、〇〇七、〇六〇斤 六枚	三五、六五九、六〇三・九七〇
縮緬	七六七反	九、一九八・九〇〇
羽二重	四一七、四五九反	六、三七九、〇四四・一七〇
他の諸絹布類	二五、八八九反	一三〇、〇四一・一五〇
絹綿布類	五、八一三反	八、四一一・三一〇
絹布手巾	九二八、九七九打	二、七〇九、六四八・八〇〇
絹製品類	—	三五五、七七八・八八〇
類計	四四九、九二八反 九二八、九七九打	九、五九二、一二三・二〇一

●五箇年間米國生絲及屑物輸入高（米國絹業協會報告）

今西直次郎氏譯送

	自千八百九十六年至千八百九十七年	自千八百九十五年至千八百九十六年	自千八百九十四年至千八百九十五年	自千八百九十三年至千八百九十四年	自千八百九十二年至千八百九十三年
歐洲生絲	五、〇三〇	六、九一九	七、七二八	五、二九三	九、九二一
東洋生絲	二五八	三一六	三一六	三四三	四五二
歐洲より輸入	二四、七七一	二九、五二一	二五、一二九	一八、七六三	二七、三八〇
日本より仝	五、三三六	九、四五一	八、四〇二	四、四三五	六、二六六
廣東より仝	一〇、五二〇	一〇、三二一	一〇、〇九三	五、二一七	八、三九五
上海より仝	四五、九一五	五六、五二八	五一、六六八	三四、〇五六	五二、四一四
合計	四、六四八	五、三四八	四、八九三	二、九五六	三、六四〇
屑絲及出殼					

●佛國累年蠶業統計（同上）

佛國關稅局の調査に係る過去七ヶ年間養蠶人員、收繭額及収繭歩合は左の如し

年號	養蠶人員	收繭額	收繭歩合	蠶種
千八百九十年	一四二、五五六人	七、七九九、四二三キロ	三〇、七〇〇キロ	
千八百九十一年	一三九、四八〇	六、八八三、五七八	二九、二〇〇	
千八百九十二年	一四一、四八七	七、六八〇、一六九	三三、八〇〇	
千八百九十三年	一四八、九七一	九、九八七、一一〇	四四、三八〇	
千八百九十四年	一五四、七三三	一〇、五八四、四九一	四三、九五六	
千八百九十五年	一三九、九九六	九、三〇〇、七二七	四三、七八三	
千八百九十六年	一四五、三一〇	九、三一八、七六五	四二、〇二五	

●外報

●清國山東省山繭及絲の狀況（本年九月二十九日附在芝罘領事館報告）山繭（方言野蠶繭と云ふ）は山東省東南山地一體の地に產す就中萊州府下昌邑縣登州府下棲霞縣寧海、即墨海陽萊陽文登の諸縣を最とし榮城之に次ぐ全省產額一ヶ年凡百二十萬斤內外とす年々增加の方なれども其度甚た速かならず當省產と稱するものゝ內遼東半島產最も多く其重なる產地は安東縣、寬甸縣、懷仁縣とす安東縣中最も有名の地を擧ぐれば虎山、栗子園、紅石拉子、五道溝、劈柴溝、大金山灣營臺子、後大東溝、北轉水湖、南礦洞、龍泉溝、鳥景飛、後小東溝其他十餘ヶ所寬甸縣、懷仁縣は所在皆產地にして就中大舖石河大平川・大林子等を最とす此地方に產するものは山東省產に比し品質佳良にして其數量安東縣附近のみにて年々五千籠（每籠二萬五六千繭を容る）一籠の重量を假に四百斤とせば此全量實に二百萬斤となる之に懷仁地方產額凡同量を加へたる合計四百萬斤は年々芝罘に輸送するものと見て大差なかるべし之に當省產凡百二十萬斤を加ふるときは總計五百二十萬斤となる之に由り是を觀るときは山繭產地は山東省にあらずして遼東半島沿岸の地にありと知るべし

該地方に於ける養法は山東省と畧ぼ同一なれとも寒冷のため山東省に比し三週間餘後るゝのみ其季節は矢張春秋二季にあり春は陽暦四月初旬即清明の頃出蛾穀雨の候出蠶上一眠より四眠を經て小暑に至り前後一百二十餘日にして收繭し秋は陽暦七月頃即立秋以後出蛾處暑の候出蠶同じく一眠より四眠を經て九月降霜の頃前後一百十餘日にして收繭す

養法　此れ本邦長野地方に比し大に簡便にして殆と天然に任する方なり出蠶後凡二三日間は室内に養ふ其より直に樹上に放養し最初は一樹に數百千疋追ゝ生長するに隨ひ適宜他に移すを法とす之を移すには蠶の宿する小枝を切斷し之を他樹に掛置くなり樹の大小に依り蠶數一ならず多きは數百少きは數十又一人の養數春季は二千五百疋秋季は四千疋内外とす山上小屋を設け四方に繩を延き鳥類を防ぐに備ふ樹は我邦柏の如きものにして柞樹又は柏羅樹とも云ふ地上より凡一二尺位の高に切斷して數多の枝を出さしむ枝の長きは凡七八尺あれども多くは五六尺に止む當業者の言に據れば些少の降雨は敢て妨なきも風は最も害ある故柞樹を植付くるに多く山間を撰むは一は風難を避け一は鳥類見張の勞を省くものなりと

柞樹畑　此は我二町四方位を一區として之を一把と唱ふ（斯く制限せられたる地方官に於て課稅上の便利より定むるものにして當數は敢て問はず）毎把に付各地稅額一ならざれとも山東省は凡我二圓三十錢遼東半島は凡一圓二三十錢なるが如し之を剪子稅と云ふ毎把の蠶數凡四千五六百を通例とするが如し

山繭絲　此は方言灰絲と云ふ絲に二種あり大繊絲小繊絲とす大繊絲とは大形械小絲（かせ）とは小形械を云ふ大械は多くは手繰絲にして遼東半島は一般大繊に屬す山東省中寧海州邊には往々手繰絲を小繊にする者あれとも其數甚だ多からず大繊絲は從來概して粗製品多く泥糊の混入すること殆と原量の二割内外又多く屑絲を生ずる爲め織上までは全量の三四割を減ずと云ふ故に小繊絲に比し代價自ら低し而して何故に斯く泥糊を混入するかを詮すれば別に理由あるにあらず單に其量目を重くせんとするに外ならず混和物を多量に含むものは其色黄にして艶なく少しく雨氣を帶ぶれば忽ち濕氣を生じ之を乾燥して一打すれば粉質飛散容易に其泥糊の混入を看破するを得べし是從來生絲取扱者の大弊害とす往年は外人中にも此混和物あるを知らずして買收せしものありしも近年は否らず一々之を檢査し若し少しにても粉質あれば直に二三割の減量を加算し原價を低下して買收せり近年其弊大に減じたるも未た全く跡を絶つに至らず

製絲費　製絲に屬する經費其他に關し參考の爲め芝罘華豊製械繊絲廠狀況を左に掲ぐ

芝罘製絲場概況　當港に在る製絲場は專ら野蠶繭を以て製する所にして大小二棟に分れ大なる方は最初創立の際建造せしものにして小なる方は昨年增築せしものなり大なる方には紡績臺十四座毎座三十名の職工を要し小なる方には四臺ありて毎座職工四十名を要し合計五百八十名とす其外繭を分配し又は蛾を收拾するに要するもの及火夫等を合すれば六百餘名に達す繭を蒸す所あり鍋二十六個を安置す野蠶繭貯蓄所あり皆各棟に分る其他賬方あり客廳あり頗る宏大なるものなり此製絲場は名けて華豊械器機絲廠と云ふ今左に項を分ちて其營業の概略を叙す

一職工は前述の如く六百人にして督男子とす十四五歳より四十歳前後のものあり重に當附近のものなり

一賃金は製出する絲量に按して給與す目下十匁毎ニ付二十文但シ食事は製絲場の賄とす

一職工一人一日の製絲高は一樣ならず巧みなるものは能く一日に六十匁を製し最拙劣なるものは漸く二三十匁内外に過ぎず

一作業時間は四季によりて多少差あるも目下午前四時半就業午後六時退散

一鍋一口毎一回の蒸繭量は繭一萬個にして三時間を要す薪は松木にして以上一萬個を煮るには約百二十斤餘を要す現今使用の鍋は二十個にして其餘の六個は用ひ居らず

一一日の製絲高は絲十五貫目屑絲十六貫目餘とす固より繭質の好惡によりて一樣ならずと雖も繭千個より得る所の絲は約七十五匁にして屑絲は八十匁餘とす屑絲は大挽手二挽手の二種に分つ大挽手とは最初鍋に掛ける前に取りたる外部のものにて二挽手は最終に至り最早鍋に掛くる能はざるに至り殘りたるものなり

一原料の產地は當製絲場に用ふる野繭は當省產にあらずして悉く遼東半島より輸入す故に毎年店員を派して大孤山、龍子窩、安東縣に至り買收せしむと云ふ

今該製絲場毎日の收支概算を查するに

收入之部

一三百二十兩　一日製出高十五貫目の時價
一五十兩　同上屑絲十六貫目の時價
合計三百七十兩　（此墨銀五百二十八弗六十仙餘但し一弗は銀七錢の割）

此外蛾あれども算入せず蛾百斤三百文位に賣行と云ふ

支出之部

一三十一吊文　（此換算高墨銀三十七弗二十九仙餘但し洋銀一弗は八百六十文の割）

是は職工六百人に對する一日雇貸にして各等差あるも右は其總額を擧げたるものなり

一九吊六百文　（此換算高墨銀十一弗十六仙餘）

是は鍋二十個に要する薪二千四百斤の代價　但し毎斤四文の割

是は廿九年六月の調査にて順泰號同年三月に右製絲場を借受け未た間もなきことゝて多少不慣の所あり隨ひて其利益も亦甚た薄かりしが爾來拮据經營今日に至りては絲價も當時に比して頗る昇騰して可なりの利潤あるに至りたるは言を候たず尚ほ昨年々報野蠶絲の部參看せられたし

●伊太利繭取引高及確定相場　伊國農務大臣は本年生なる市場に於て取引せる繭額を公報せり即ち左の如し　（今西直次郎氏譯）

一二十七弗　是は一日の食料

一十五兩　是は職工外雜役店員等百五十人の給金手當等但し人に依りて多少の差あるは言を候たず

一十一兩六錢六分餘　（此換算高墨銀十六弗六十六錢餘仙）

是は該製絲場一切　（即ち家屋機械一式）の損料借貸　但し年額四千二百兩の割

一二百四十兩　（此換算高墨銀三百四十二弗八十六錢）

是は繭二十萬個の代價　但し毎千個の價は一兩二錢此内二錢は遼東より當地に輸入する一切の費用にして產地にての相場は千個一兩なり

合計四百八十六兩九十七仙

差引殘金四十一弗六十三仙（即純益金）

種類	取引高	繭一キロ平均價格	以上總額
伊國種	七、九三八、五四〇キロ	二、三九四	一九、七九七、九三七ヲール
黃種掛合	五、五八四、三二〇	二、四四四	八、七六〇、八九一
日清復製	四七九、六七〇	二、五九〇	一、二四二、五三七
日本種輸入	二一二、四八〇	二、四二五	五九、二一三
合計	一二、〇二六、九五〇		二九、八六〇、五七八

又伊國蠶業新報に據れば各繭市場に於ける繭取引高及確定せる平均相場は左の如し

ピエモン州

繭市場名	取引高	平均相場	但一「キロ」付
アツキ	六九、一四〇キロ	二、八三ヲール	一「ヲール」ハ該二同シ
アルバ	二六八、四〇〇	二、六九	
アレキサンドリ	一八一、三六九	二、五五	
アスチ	四九九、三三九	二、七七	
プラ	一三九、二五〇	二、九三	
バウヤ	八〇、四〇〇	三、〇〇	
カチリ	八六、八五〇	三、〇〇	
カルマニヨール	一一六、〇〇〇	二、五五	
カリユ	二四、七〇〇	三、〇七	
カサルモンヘラ	一二二、九四六	二、七五	
カヌテルニユチダスチ	二八、〇八〇	二、七八	
カウール	一一四、〇〇〇	二、七三	
セワ	九三、二五〇	二、六六	
シヌソ	一五、四五〇	二、五六	
キユチチ	七六五、〇九〇	三、〇四	
ドグリアニ	三〇、〇〇〇	二、六九	
ホサノ	一三〇、五〇〇	三、〇〇	
イウレ	六〇〇、九〇〇	二、七〇	

ロンバルヂシユ州及ウエチシ州

繭市場名	取引高	平均相場	但一「キロ」付
モンドウイ	一五〇、五〇〇	二、九五	
ニースモンヘラ	三八、六〇〇	二、七九	
ノワール	三二七、四八九	二、六七	
ノウイリギユール	二〇、四〇〇	二、四四	
ピチロール	二〇一、三四〇	二、八八	
ラコニース	三六七、三〇〇	二、七七	
サリユセース	一六四、六四〇	二、九六	
サウイグリアノ	一〇三、九五〇	二、八〇	
チユラン	四六〇、〇〇〇	二、六二	
ウイラフランカ	四九、四九〇	二、九五	
アルウニヤノ	一四〇、〇〇〇	二、五七	
プレシヤ	九八、七四九	二、三三	
カステルフラ	一七〇、〇〇〇	二、六五	
ンコウユチト	三一〇、七七二	二、四七	
コロニヤウエチタ	二三二、二四一	二、二〇	
クレーム	一五三、一六四	二、二八	
クレモーヌ	四六、二〇〇	二、八〇	
フエルトル	八三、〇四四	二、七五	
ガラート			

ロヂ	二三六、八九六	二、一九
ロニゴ	二六一、四六〇	二、七八
マンツー	一六五、八三二	二、一二
モタヂリウエンザ	八四、五〇〇	二、四〇
ミランドラ	二四、四三八	二、〇三
チデルゾ	六〇、〇〇〇	二、六八
パウイ	一〇、五五〇	二、二三
ストラブラ	一四〇、七六七	二、四一
ロウイゴ	四八、九四五	二、一七
ウチセラ	二五八、五六四	二、三七
ウチセワノ	一一三、〇〇〇	二、一九
ウエローヌ	五五、三二六	二、二七
パヂー	七、七三八	二、二五

中央地方

ボローニユ	四一四、一〇三	二、三〇
ボルゴビユジアノ	一四、一八〇	二、五五
セヾナ	一一〇、四八〇	二、二九
シタヂカステロ	一九、一〇〇	二、五二
シウイテラヂロマニヤ	二、二四一	二、二五
コレジチ	二四、八五六	二、三八
ヂコマノ	四、〇〇〇	二、四六
エンポリ	一三、三〇〇	二、三〇
フアエンザ	三四、八七九	二、二七
フアノ	四〇、八九七	二、一九
フイグリーヌ	七八、二〇〇	二、四六
ワールダルノ		
ホルリ	二九二、六四五	二、三四
ホソンブローヌ	一三五、〇三二	二、三五
ギユアスタラ	三一、八〇八	二、三八
イエシ	三五〇、六四五	二、三三
イモラ	一〇五、七八〇	二、三四
リユゴ	九六、八二〇	二、三七
リユゴ	二〇一、〇三一	二、一四
マンヂアノ	八、三九〇	二、三六
マラヂ	一一、〇三九	二、七〇
メルドラ	七九、〇八三	二、六〇
モデーヌ	七三、〇三三	二、三六
モントワルシ	九八、〇〇〇	二、四九
マセラタ	四三、五八〇	二、一六
モルシヤノヂロマニヤ	一七、七二二	二、二五
チシモ	一七六、六〇〇	二、三八
パルム	二一五、二三四	二、五一
ベルース	六四、五九七	二、六三
ベサロ	一三〇、九二〇	二、三三
ベルゴラ	六、八一四	二、二三
レカナチ	二一、八四五	二、三七
リミニ	七六、六三八	二、三一
レジチエミリ	一二八、八八四	二、三六
サンアルカンセ	四四、二一八	二、二五
ロヂロマニヤ	九、七〇〇	二、一七
サウイニヤノヂロマニヤ	八、三九〇	二、三七
スカンヂヤノ	六八、一六〇	ナシ
ロカサンカシヤノ	二五、五〇九	二、一七
シニガクリヤ	一〇、七三〇	二、四〇
スポレト	一八、四九四	二、七二
ウイニヨラ		

フルウル州

ユヂーヌ、マルセ	四、二四八	二、四〇
仝　プロンス	ナシ	二、三六

●雜報

●山形支會發會式

大日本蠶絲會山形支會發會式は十月九日山形市會議堂に於て擧行せり今其概況を記せんに門前には高く國旗を交叉し其右側には大日本蠶絲會山形支會發會式と大書したる表榜をなし式場には演檀を設くる等諸事整然として紊れず發起人諸氏苦心の存する所想見するに餘りありと謂ふべし扨當日の開會は午前十時の豫定なりしも前夜は突如として覆盆の激雨降り漸く東天曙光を放つの頃に及びて雨全く歇みたるも其餘波延て會員諸氏の出席時間に關係し定刻に達するも出席者甚た僅少なりしかば到底多數の出席は得て望むべからずとなし發起人諸氏には痛く心配せられたるに正午に近き頃より徐々參會ありて午後一時半といふ頃に至りては其數殆と八十餘名の多きに達し發起人諸氏には僅に安堵の思をなすを得たり

二時を報すると同時に開會となり先つ木野山形縣屬、勸業諮問會員一同、山形自由新聞、山形新聞、山形縣農報の三記者を始めとし來賓一同並に會員八十四名總て一百二十有餘名式場に參列し席定まるや頓て發起人惣代として松田宗兵衛氏徐々として演檀近く進み出でゝ一揖し先づ發會式擧行に就ての挨拶を爲し且今回支會を設置せるに至りたる由緣を叙述せられ了りて芝山直清氏は大日本蠶絲會を代表して祝辭を述べられ尙進んで支會に對する自己の希望を叮嚀に演せられ尋で大日本蠶絲會幹事高橋信貞氏より遠く寄せられたる祝辭（松田宗兵衛氏代讀）本縣書記官床次竹二郎氏より寄せられたる祝詞（木野屬代讀）次に雄倉山形市長、岩田南村山郡長、飯田東村山郡長等の祝詞朗讀次に金子孫左衛門氏の演說細梅勘六、佐藤道三、井上傳二郎、宮川潛藏、今田重郎、三條吉之助、川村利三、會田太七等の諸氏交々祝詞を朗讀し畢て松田宗兵衛氏各地よりの祝電を報告し最後に發起人惣代として會田源次郎氏は如何にも莊重に謝辭を朗讀せられ是れにて式は全く結了せり因て發起人には來賓一同を別室に請じて茶菓を饗せられたり時に午後四時三十五分なりき

當日床次、高橋、川村三氏の祝辭は左の如し

山形縣書記官床次竹次郎氏の祝詞　本日を以て大日本蠶絲會山形支會の發會式を擧行せらる夫れ蠶絲業の改良進歩は國運の消長と相一致す斯業曩經濟すべけんや願ふに本會の起る其意蓋し茲にあらん術も會員たるもの孜々力を此に致さば是より本縣の斯業大に擧らん聊か一言を陳して祝詞に代ふ

大日本蠶絲會幹事高橋信貞氏の祝辭　一葉の桑一頭の蠶小なり微なり而も能く之を繋げば則五大洲をも羅巻し得べく之を合すれば則五大洲をも羅巻し得べし一致共同の強且つ偉なる以て見るべし今や山形縣蠶絲家諸君一致共同大日本蠶絲會山形支會の發會式を擧行せらる其力大に北欧の偉業を遂げ閉會せしは午後六時半過なりき是より來會者百有餘名直に同市七日町千歳館の樓上大廣間に會し懇親の宴を張りしに是亦非常の盛況にして席上福引等の餘興もあり各自十二分の歡を盡して散會せしは十時に近き頃にてありき

翌十日は前會に引續き午前十時より金子孫左衛門氏坐長となりて會議を開き先づ第一號案支會規則に就き審議せしに僅に二三の修正ありしのみにて之を議了し次に役員の選擧を行ふことゝなし先づ評議員廿六名、幹事長一名、幹事五名を選擧し了て一と先づ休會し午後二時より再び開會左の諸件に就き審議せり

（第二號案）來三十一年度に於て支會品評會を開くの件（第三號案）製絲技手養成の件（第四號案）蠶の種類を一定するの件（第五號案）自家用蠶種檢査の件（第六號案）農商務省令第五號蠶絲業組合準則廢止の結果として本案に關する影響及爾後に處する方法如何以上の諸件中第四號案は次會までの宿題となり第三號案に就ては種々討議の末之を實施するとに決し其實施の方法は縣下より技手志望者十三名即ち一郡市より各一名づゝの割を以て募集し而して一人一ヶ年の資金を百圓と見積り三ヶ年を以て卒業せしめ卒業の上は之を各郡市の製絲場に配置して製絲の業を誘導啓發せしむることゝ但し其資金は縣稅より之を支辨せしむ且又技手養成の場所は夫〻適當と認むる製絲場に囑托することゝ本資金支出のことに就ては勸業諮問會員主として運動の勞を取り三十一年度の縣豫算編成の際には是非本費を豫算に編入せしむること等の夕條を決定せり他の問題は何れも全員一致にて可決し本會議は此にて閉鎖せられ次に談話會を催し席上芝山直清氏の（桑樹栽培に就ての注意）講話あり縷々一時間餘に亘れり終て川村利三氏起て　兩陛下萬歳を唱へ（會員一同之に和し次に大日本蠶絲會萬歳　山形支會萬歳を各三唱して散會せり于時午後六時半にてありき

●山形支會役員當選

大日本蠶絲會山形支會にては十月十日の大集會に於て役員及評議員を選擧せしに幹事長には芝山直清氏、幹事には松田宗兵衛、吉見治兵衛、佐藤道三、會田源次郎、三條吉之助の五氏評議員には櫻井仲藏、佐藤義晴、會田太七、栗原吉助、松田市太郎、高橋角藏、渡邊久兵衛、井上傳次郎、小畑金作、佐藤保嘉治、工藤治平、蕀野泰治、平澤彌五郎、金子孫左衛門、石山學太郎、佐々木市四郎、川村利三、高山悌次郎、峰村喜藏、廣居忠貞、人見堅治、保科忠三郎、前田仲治、本間光義、粕谷次郎、大館藤兵衛の二十六氏選ばる當選したる旨本會に屆出たり

●生絲檢査成績の報告期改正

各生絲檢査所長より檢査成績を農商務大臣に報告するは毎年五月及十一月の定めなりしが之を六月及十二月に改められたり

●横濱生絲檢査所生絲檢査調

横濱生絲檢査所に於て本年十月四日より同三十日に至る四週間に内外生絲貿易商及地方生絲製産者の請求に應じ檢査を施行せられたるもの左の如し

檢査請求項目	生絲種別件數 器械	生絲種別件數 器械	生絲種別件數 器械	生絲種別件數 蚕繭	生絲種別件數 蚕繭	生絲種別件數 蚕繭	請求人員 内國人	請求人員 外國人	請求人員 計
原量、正量、再繰、繊度、類節、強力、伸度	一		一				一		一
原量、正量、再繰、繊度、類節、強力、伸度	一三		一三				五		五
原量	九		九						
正量				一八		一八		一	一
再繰、繊度、類節、強力、伸度	一四三		一四三	一九		一九		二三	二三
再繰、繊度、強力、伸度	五一		五一	一六二		一六二		二	二
再繰、繊度、類節	一六		一六	五九		五九		二	二
再繰、繊度				一六		一六		二	二
繊度、類節									
繊度	七		七	七		七	一	一	二
合計	二四三		二四三	三七		三七	三四	八	四二
檢査請求項目	器械	蚕繭	計	器械	蚕繭	計	内國人	外國人	計
再繰、繊度、類節、強力、伸度	八		八	八		八	四		四
合計	八		八	八		八	四		四

●神戸生絲檢査所生絲檢査調

神戸生絲檢査所に於て本年九月中生絲貿易商及地方生絲製産者の請求に應じ檢査を施行せられたるもの左の如し

●生絲取引呼直の改正

横濱に於ける生絲賣込商は舊來の習慣にて我一圓に對し常に何弗又は何枚と唱へて賣込みを爲し居りしが先月一日より金貨本位實施に就き横濱生絲貿易商組合にては舊來の呼直を改正し圓錢と稱することゝし各生絲商館へ向け頭取小野光景氏より左の通知書を發し各商館の承諾を求めたりといふ

從來本組合員と貴商會と蠶絲賣買取引上代價の稱呼は弗或は枚を用ひ來り候處今後右稱呼を廢し日本法貨圓錢を以て取引するものとす

●外商と定期市場

横濱蠶絲外四品取引所は創立以來外國人が賣買取引するとなりしに本邦も愈々金貨國となり對歐米爲替相場激變の影響を受けざるに至りしかば近頃横濱在留外國生絲商は從前の如く商館取引よりは寧ろ本國機屋の注文に應じ取引所に於て先物の定期賣買を爲す方便利なるを知り餘に三百九番館の如き十一月及十二月渡先物二萬五千斤又九十五番館は當切一萬斤許の買持を爲したる由斯く外商等が定期市場に手を出し盛に賣買するに至らば當に同取引所の盛運なるのみならず生絲取引上に一變動を起すべしと云ふ當局者一顧せずんばあるべからざるなり

●本年中央亞細亞養蠶の結果

（九月四日附佛國蠶業新報抄譯）（今西直次郎氏譯送）中央亞細亞中蠶絲業の最も盛なるノウィマルグラトと云へる處より去る八月二日附の通信によれば本年の收繭額は昨年に比し畧ぼ同額なりしが繭の品質は氣候の暖和によりて最も良好なるものを獲たり蠶種の使用に就ては内地人は漸々其地方の蠶種を廢して小亞細亞産若くは佛國産を用ふるもの甚た多し而して其種類は白種にして伊佛兩國の黄種は年次減少しつゝあるなり

●佛國蠶絲類輸入課稅の出願

（九月四日附佛國蠶業新報抄譯）佛國の養蠶家は政府及ひ上下兩院議員に向て伊國及び東洋生絲の競爭して輸入するを防がん爲め總代連署を以て願書を呈出せり其出願の要項は左の如し

第一　生絲一「キロ」に付一法干繭一「キロ」に付三法の輸入稅を課すること

第二　生絲一「キロ」に付十七法撚絲一「キロ」に付二十法の輸入稅を課すること

若し輿論の之に反對する場合に於ては我ゝ當業者は熱心に左の方法を設けられんことを希望す

第一　養蠶家及び製絲場に對して向ふ十年間養蠶家には繭一「キロ」に付て七十五山製絲場には製絲釜一箇に付て四百法の奬勵金を下付せらるゝこと

第二　撚絲は其種類の如何を問はず一「キロ」に付三法の輸入稅を課すること

第三　外國產の屠物に對しては熨斗絲一「キロ」に付二法出殼繭一「キロ」に付二法玉繭一「キロ」に付一法揚繭一「キロ」に付四十山の輸入稅を課すること

編者曰佛國に於ける各製絲工場の工男工女よりも同意味の請願をなせりといふ佛國蠶業の前途推想するに足るものあらむ

●露領高加索官立製絲場及織工場　露國政府は本年よりトリフィ蠶業講習所内に製絲場及職工場を設立することに決定せり該工場には手工又は機械によりて運轉すべきものを備へ付而して工場長は莫斯科の機業場より招聘すべし惣て組織は外國の例に倣ふべきものにして政府は蠶業講習所教授を伊國及び佛國に派出して蠶業講習に供へたる學理上の組織を研究せしめんとすと云ふ

●清國蠶絲業視察報告　大日本蠶絲會特別會員高津仲次郎氏は本年五月農商務省の依囑を受け清國に於ける養蠶及製絲業の事情を探究せむが爲め同月四日横濱を解纜し同十二日上海に着し清國蠶業の中心なる江蘇、浙江の二省を巡歷し更に楊子江を溯りて沿岸の各地を視察し湖北省漢口に至りて上海に戻り更に海路を北に取り山東省に出で朝鮮を經て七月二十三日歸朝せられたり

氏の主務大臣に呈せられたる報告中見るべもの多し依て其要項を左に掲載す

氣候風土　江蘇、浙江の氣候風土は之を日本に比するに九州或は四國の南方と寒暖の度相似たりと云ふも可ならん今回の行即ち五月中旬より六月初旬の間は大概華氏の七十度より七十五度前後にして雨量甚だ多く陰濕厭ふべきものあり恰も我梅雨の候の如し然しながら氣象臺の報告を比較すれば眞の養蠶季節なる四五の兩月は濕度却て我東京より低く又雨雪一年平均量は我東京より多しと雖も五六の兩月は却て少きを示す悉しくは左表を見るべし

上海氣象略表

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
平均氣溫	三、五	四、四	八、四	一三、〇	一八、六	二二、七	二八、一	二七、〇	二三、〇	一七、三	一〇、七	五、七	一五、二
最高氣溫	九、〇	一四、四	一九、〇	三一、〇	三三、〇	三一、八	三八、九	三六、四	三三、〇	二九、〇	二三、一	一八、〇	三八、九
最低氣溫	(一)八、二	(一)一、八	〇、二	二、〇	七、六	一四、七	二一、七	一六、八	一三、五	七、五(一)	八、八	八、二(一)	八、二
平均濕度	八五	八四	七七	七一	七四	八九	八三	八三	八四	七七	七八	八〇	八〇
雨雪量	七三	八〇	一〇六	一三三	一二二	一五一	一一六	一四七	一五三	六五	九四	一二	一二五二

東京氣象略表

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
平均氣溫	二、六	三、六	七、〇	一二、二	一六、五	二〇、三	二四、三	二五、五	二二、〇	一五、七	一〇、〇	五、三	一三、八
最高氣溫	八、一	八、六	一二、二	一七、〇	二一、一	二四、四	二八、四	二九、七	二六、一	二〇、五	一五、六	一一、三	一八、六
最低氣溫	(一)二、二	(一)一、〇	一、七	七、三	一一、七	一六、六	二〇、九	二一、七	一八、四	一一、五	五、〇	〇、一	九、三
平均濕度	六六	六七	七〇	七六	七九	八三	八四	八二	八三	八〇	七五	六九	七六
雨雪量	五三	七八	一二一	一一六	一四八	一七七	一二五	一〇九	二〇七	一八七	一〇七	五〇	一四八四

（備考）氣溫は攝氏の度にして(一)を付するは氷點以下を示す溫度は百分率雨雪量は耗（ミリメートル）

地勢は到るところ山岳の起伏なく一望千里肥沃の壤土にして就中浙江省即ち杭州紹興嘉興桐鄉等は其土質最も耕作に適せるもの丶如く江蘇省中蘇州無錫は之を浙江に較ぶるに下る事或は一等ならんと雖も尙ほ之を以て今回經歷したる他の諸省に比する時は素より上の上なるものにして米田桑園相連り耕作洽く行はれ都市村落繁榮を極め人口殊に稠密にして農家は耕耘蠶桑に忙はしく都民は製造工業に汲々として商賈亦甚た繁劇の模樣あり以て此地方風土の宜しく從て殷富なるを知るべし然しながら一度此兩省を去つて楊子江を溯り安徽江西湖南湖北に向ふ時は其上流に進むに從ひ漸次に耕作の模樣較兩省に劣るを見る之れ楊子江の氾濫屢害を被らするに依るべしと雖も其氣候も江、浙兩地の如く海風の和融を受くる事少き爲めか内地に到るに從ひ寒暑共に劇甚にして漢口の如きは六月初旬既に華氏の百度に達したりと雖も江蘇、浙江地方は七月下旬に至らざれば百度に上る事なしと云ふ歸路芝罘に立寄りて其風土を視察せしに山東の土質は更に又下る事數等の瘠土なるを知れり

江蘇、浙江の兩地が古來支那歷代の朝に重要視せられて產業の發達他省に勝り其都市殊に殷賑を極めたるものは全く氣候風土の天惠に依るものにして其寒暖は我國南海地方に似たりと雖も土質の美なる

は負かに其上にありて重厚なるが故に苟も農事に經驗あるものは一見して其肥沃なる粘質壤土たるを辨知し得べし殊に水利の十分にして灌漑にも水運にも其水源の潤澤なるは羨望すべきところにして到底我國土中之と肩を比すべきの地なしと云ふも不可ならざれど唯獨り怪しむべきは何故斯の如き粘質壤土が桑園に適するかの一事にして古來我國に於て桑園適應の地と稱するは寧ろ粘着力少き砂質壤土を好しとせり然るに今回浙江の兩省を過ぐるに及んで全く其事實は我國と相反せるを見たり即ち兩省とも到るところ桑園は其土質皆粘質壤土なりと雖も桑樹の生長は却て我國にて貴ぶ所の砂質壤土よりは頁好なるのみならず其葉は厚くして大に恰も柏葉の如く十分に生長せり之れ一には桑樹の種類に依ると雖も一には地質の適應せる爲めにして是等の土質研究と桑樹に對する適否及ひ我國土との比較に於ては大に專門家の考究に依りて十分の調査あらん事を望むものなり

桑樹栽培　氣候風土共に斯の如く頁好なる江浙の養蠶地に於ける桑園の景況は一見したるところ其土地平坦なるが故に一望際なく相連り米田菜圃と相競ふて其生長を爭ふに似たり而して其桑園の栽培法は注意甚た周到にして仕立方は我國の高木造りと同しく四尺乃至七尺前後に達するものありと雖も我國の如く畔地又は田畑の周圍に之を植うるなどの事は絶て見るとところなくして孰も他の作物を交へず大概は獨立の桑園を爲せり

桑樹の種類は到るとところ均一にして皆所謂魯桑なりと雖も我國に於ける魯桑の如く其枝條軟弱ならず之れ或は接木法又は栽培法の注意宜しきを得たるに依るものなるべし養蠶及其他の農業に就ては清國人の習慣として萬事放漫なるに似ず桑樹の栽培法に到りては殊に見るべきもの少からざるに依り之より些か見聞の事實を述ふべし

蘇州杭州地方とも其桑園は皆接木法に依るものにして其臺木と爲すものを荆桑と云ふ荆桑は其樹質甚た堅勁にして椹（桑の實）を結ふよ最も多きが故に其葉は小にして其敗獲も之を荆桑に比すれば甚た少しと雖も其椹を採りて苗を作るには甚た適當せるに依り桑園の耕作者は毎歲此荆桑の椹を採りて芒種後夏至までの間に播稙し苗木を得るもの多し其方法は椹の熟して黑色と爲りたるものを採り之を碎ひて水中に放置し浮めるものを取り捨て沈めるものゝみを揚げて之を陰乾と爲し數日を經たる後豫め之が爲に肥料を施し土を開きて用意したる苗畑へ下種し其上へ藁灰を冠せ置くなり斯くの如くして能く發芽したる時は更に屢肥料を加へて翌年の春初めて桑園へ移し植うるものとす

桑園へ植移したる後更に又一年を經て其幹の生育十分なるを確むるや其年の春分前後に到り始めて接木を行ふものにして其方法は臺木の幹を地上一二尺のところにて切斷し皮肉の間を開きて之れへ馬耳形に削りたる魯桑の枝を挿入し堅縛し置く事我國の接木法と異るなし

苗桑既に接木を終りて一年を經過すれば其翌年より其枝を刈り其桑を取穫し得るものなれども其枝條の刈方は必す一定の方法ありて我國の如く亂雜ならず即ち最初の年には唯二本の幹のみを存して更に枝條を存せしめず翌年に至りては其幹の頭上より生じたる枝四本を存して其他を全く刈取り又其翌年に至りては此四條の枝より生じたる枝各二本宛即ち八本を存して其他を刈取るが故に圖に於て示すが如く其枝條は遂に分れて八條となるべし之を八拳式と稱して毎歲此八本の枝より生ずる枝葉は殘りなく之を刈取るが故に其切口は拳の如く塊まり居るに依り此名を得たるものならん

各桑園とも到るところ大概此方法に習ふて其桑樹を栽培するが故に其拳數に多少の相異あれとも其繁茂の狀態齊然として不規則ならず又桑園中桑樹間の距離は大概四尺乃至六尺にして其耕耘は一年二回或は三回にして春分桑葉刈取後又は冬至に至り圖の如き鍬簷手にて各樹間の土を掘返し夏季には圖に示せる麻搔鍬の如きものを以て雜草を除き肥料は耕耘の都度樹根の周圍を掘りて人糞或は近傍に於ける河底の泥土及藻屑は古來田圖の肥料として使用せるものにして土地を軟和にし植物の生産を助くるの効用甚た大なりと云へり

桑樹の高さは四五尺よりして六七尺に達するものあるが故に春夏發芽の後に至り其葉を摘み又は其枝條を刈取るには階子又は踏臺を用ひ圖の如き鋏にて摘刈し決して我國の如く鎌を以て切るものなし又桑葉收穫の分量に就ては萬口一ならずして其委しきを知り難きも大概一畝（四坪二百）の桑樹にて少きは千斤多きは千五百斤に達するものあり繁茂生育の模樣は甚た頁好にして今回の巡察中には更に我國養蠶病の如き病桑のあるを見ず之れ地質の適當せると高木作りなる等に依るならんと雖も蟲害の如きも曾て甚しき禍を受けたることなしと云ふ然しながら稀に天牛と云へる蟲害に罹りたる時は桐油を塗り

て此の害蟲を鏖殺し或は深く樹幹に喰入りたるものある時は條鐵にて刺殺す由然しながら之を通覧したるところにては病桑蟲害の如きは殆と之を見ずして數十年の老木も其生色尚ほ若木の如し之れ一には地質氣候の善良なるに依るべしと雖も一には耕作栽培の道甚た進み居るが爲めにして我國同業者の爲めには大に鑑戒となるもの少からず

桑樹の發芽は養蠶と同しく江蘇地方に比すれば浙江地方最も早くして就中其南方新昌嵊縣等は之を江蘇の蘇州無錫に較ぶれば殆と二十日間も早し桑樹の生育も江蘇に比すれば其地味の優れるが爲め浙江各地は貿かに繁茂せるを見たり

養蠶家は大概自ら桑園を有するもの多しと雖も其飼育季節に到れば互に過不足あるを免かれず從て桑葉の賣買は到るところに之あらざるなく都市村落ともに青葉老行の張札を爲したる店少からず之れ桑市場の看板にして賣買双方共に甚た便利なるは運河の縱横に通じて運搬の快速なることと大に飼育者の緩急を助け得るものあり我國の養蠶地方にては未た斯の如く運送の便を有するもののあるを視す巡廻中に聞きたる桑の相場は百斤八十錢より一圓五十錢位までなり又桑園の價は一畝五十圓より八十圓までなりと云ふ

●蠶種　清國の蠶種は自家製造のもの多くして蠶種製造人の種を購買するもの甚た少し養蠶既に上蔟を畢へて各家皆其繭を收むるや何れも其收繭中の良好なるものを撰みて種繭と爲し之を筐に並べ置け共或は繭草と稱する草に附着せしめて天井に吊し置くあり或は又た之を糸に連ねて珠數の如く爲し置くもあり上蔟後凡十五日を經て蛾の發生するや敢て我國の如く掛け紙などを覆ふを見ず交尾の時間等に就ては更に我國と異る事なしと雖も蛾蟲蠶卵の生産力は寧ろ我國の蛾蟲に及ばずして一枚の蠶卵紙は大凡我國の蠶卵紙に比し三倍位ありて其全面に產ましむる には三百八十蛾の多きを用ふるを見たり

自家製造の蠶種は大概綿布の上に產しむるもの多くして其綿布は殊に古きを尊ぶと云ふ然しなから素より賣物にあらさるか故に長短廣狹一定せすと雖も蠶種製造家の製するものは我國蠶種の二倍又は三倍位なる一定の大さにして滙返しの如き厚紙を用ひ從て製すれば從て之を賣り我國の如く秋冷の候を待て賣り捌くものに非す其價は我國蠶種の三倍位のもの一枚に付我一圓三十錢位にして江浙兩省中蠶種製造家の最も多きは杭州の近傍餘杭縣及紹興府の嵊縣にして廣く清國內地に行はれ需用甚た多し又各蠶種製造人が種を製するは必すしも一戶の種屋が自ら多くの養蠶を爲して多數を製するにあらずして或は各戶より種繭を買集め又は毎戶僅かつゝ製造したるものを買集めて己れの商標を附し賣るものなり餘杭に於ては現に一戶にて三千枚以上を販賣するものあり

蠶種を貯藏するに就ては各地方ともに種々の習慣ありし餘杭地方にては毎歲冬至の頃茶二匙と石灰一匁を混して之を約四五升の沸湯に溶解し其温度の減するを俟ちて蠶卵紙を此中に投し線香一炷間之を浸漬して後陰乾と爲し嵊縣地方にては產卵後數日蠶種の表面一面に石灰を撒布して之を卷き納め冬至に至りて取り出し鹽水の中へ二日間浸漬したる後更に清水にて洗滌す又無錫地方にては冬至の頃燒鹽を極めて細末と爲し蠶種の表面に撒布し屋外に出して寒天に曝露すること三四日を過ぎて後更に清水にて洗滌すと云ふ

蠶種の種類と病毒の有無等に就ては之を調査する事甚た必要なりと雖も如何せん彼國人か之を飼育するの情態は尙三十年前の我國の如く只管迷信と舊慣に拘泥し毫も是等の事に就て注意なきが故に容易に其種類等を甄別し且つ病原の有無をも探究するの道を得る能はさりしは甚た遺憾なりとす然しなから之を要するに蠶種の種類は甚た多くして病毒亦少からさるは成繭の不同なると養蠶中屢斃蠶の出る模樣に依りて之を證するを得へし然しなから蛆害の如きは殆と皆無にして視察中唯稀れに之を見たるのみ是れ全く氣候風土に依るものにして他に原因なきが如し　（以下次報）

●米國に於ける日清の繭絲

在米新井領一郎氏より星野長太郎氏へ送りたる書信に曰く

清國有名の養蠶地方御巡遊の報告に據れば他日は知らず目下の景況にては絲繭供給不足の爲め非常に多額の器機絲を輸出し能はざるもの丶如きも只恐るゝは追々內國用の繭を機械屋へ賣るの習慣相付候上は日本の製絲場と異なり本仕掛に且つ大計畫に成立居候事に付き我國上等絲の大强敵にて決して油斷不相成事と信じ申候又當年の如きは銀塊大下落の爲め我絲と競走上清國は非常の便益有之事に候當國商界全躰の模樣は昨年末より徐々恢復加ふるに穀物豊作と直段上進（歐洲不作の爲め昨年當時に比し

殆と凡十割の騰貴）は益〻今後の光景を助け可申と存候又絹業社界も目先き大光景は望み難きも先き行は宜敷リボンの如きは中〻繁忙に候（尤も巾廣物は寧ろ靜の方に候得共）只昨今の上進相場にては利益の見込なく又當秋季織物に對しては季末の今日直上げは望み難く實際に就き各機屋も目先必要のみ買入れ成行を見居候模樣に有之候乍去横濱相場も今日の直にて九十二クーラを强氣に持堪へ候はゝ機屋も春季注文品に增直を得隨て生絲相場も猶上進を見ざる限り無之候併し其結果如何は横濱市場今後の進退大に關係を有し候云々

●蠶絲業家の奮發　新潟縣岩船郡高根村海沼英祐氏（大日本蠶絲會特別會員、縣參事會員）

は縣下の製絲場所有者（縣下を通じ九十一箇所）の聯合大會を開き一の組合を設立し大に斯業の改良發達を圖らんとて目下其の計畫に盡力中なりしと云ふ

●小野橋吉氏銀杯を受く　大日本蠶絲會員三重縣河藝郡養蠶傳習所教師小野橋吉氏は蠶絲

業改良發達に盡力せらるゝこと茲に數年其效績顯著なりとて蠶絲業組合より左の感謝狀に銀杯一個を添へて贈られたり（會員中川茂郎氏報）

君は夙に蠶業に志し其術を專門の場に研修せらるゝこと多年業を卒へて後ち蠶都を巡遊し倍〻其蘊奥を極めらる義に本郡白子町外廿二箇町村組合が養蠶講話會を各町村に開くや君其嘱託に依り各町村を巡回せらるゝこと數回次に斯業の進歩改良を圖られ爲めに其業の發達すること歩を進めて怠らず而して各町村の養蠶傳習所を設立するや君本縣の命に依り教授の任に當らるゝ茲に二年今や傳習期滿ち其業を終ふ其間熱誠能く其任を盡し生徒を薫陶せらるゝ其功績洵に顯著なりとす依て愛に本組合の決議に依り銀杯壹個を贈呈し以て謝意を表す不眞の微物敢て君が勞に報ずるに足らずと雖も冀くは微志のある所を受納せられんことを

明治三十年七月七日　河藝郡養蠶傳習所教師　小野橋吉殿

河藝郡蠶絲業組合長　今井源左衛門印

●養蠶架に用ふる竹に就て　養蠶家の蠶架に用ふる竹は其伐採の時季に由りて蟲害に侵

され之が爲め困難するとのことは屢〻人の說くところなるが竹は八月中旬より九月下旬まで凡此四五十日間に於て伐採したるものは蟲害に侵さるゝこと尠しとす然れども右の時季に伐採するときは翌年に至り筍の發生を減ずること甚しきものなれば竹籔を愛するものは成るべく伐採すべからず（籔を愛せずして竹質のみを愛するものは此限にあらず）蠶架に使用する竹は業務の閑暇なるとき又は使用を要するとき伐り採り以て虱又は麥稈等の燃火の中にて轉換し竹の裂れざる樣注意して焙ぶるべし然るときは竹の表部に油の現はるゝものなり其油は擦綾片にて拭ひとるべし而して貯へ置くときは害蟲に侵さるゝことなきのみならず竹の表部最も奇麗になるものなり（燃火にて竹を焙ぶるは既に附着せる害蟲の卵を殺すがためなり）又五六月の交に於て蠶架に使用する竹を伐るときは蟲害に罹ること最も甚しきものなり之を防ぐには六月中旬頃より八月中旬まで凡六十日間程水中に浸し置きて引揚げ陰所に建て置き乾かすときは蟲害に罹らずと雖も前法に如かずと大日本蠶絲會技藝委員船津傳次平氏は物語られたり至極簡易なる良法なるべし

●練木紫藤兩氏の實說　前號の紙上に掲載したる埼玉縣の競進社蠶業講究所に於ける第一回

卒業證書授與式の當日式場に於て練木蠶業講習所長の演說、紫藤農商務技師の祝詞は左の如し

蠶業講習所長練木喜三氏演說　本日從來豐かなる當所第一回の卒業式に際し不肖亦幸に本社の招待せらるゝ所となり出張の命を奉して列席の榮を蒙ふを得ましたは實を本業に奉ずるの身に取り誠に感銘に堪へざる次第でございます抑〻本社は夙に我蠶業界の推す所本社從來の組織として已に然り今又加ふるに本所の設立を以て彼の精妙なる技術に加ふるに此の精確なる學理の傳習を以てせられ皆是克く甚に此盛式を擧行せらるゝに至りましたるは誠に斯業否な我國家の慶事益〻本社の御隆盛は勿論不肖等亦欣喜雀躍の至に存ます慨ふに我蠶業講習所が蓋に蠶業教育の途を開きましてより以降簡樣の御設置の年增し增加致しますは眞に賀すべきことで先づ第一に學校として顯れましたるは彼の長野縣に於ける小縣蠶業學校でございます是は御承知の通り郡立之に次で興りましたるは京都府下に於ける高等養蠶傳習所是は彼の熱心なる蠶絲業組合の設置致しましたるもの此他尙は同組合に於て設立致しました石川縣の蠶業學校及滋賀縣の簡易蠶業學校即ち是にございます彼の福島縣の蠶業學校と兵庫縣の蠶業學校とは共に縣立で郡立蠶業學校は前陳長野縣の他に尙は山形縣下に二ヶ所山梨縣下に一ヶ所鳥取縣下にも亦一ヶ所でございます富山縣の八尾蠶業學校は町立で而して今又將に興らんとするもの茨城、鳥取、及靜岡の三縣下に各一ヶ所でございます此他尙ほ諸府縣下に於ける簡易農學校若くは試驗場等の中に此一科を設けたるもの數からず其短期傳習の如きは殊に夥たゞしき一ヶ併し是は又自ら別もの其組織の完全致しましたるは縣立ならざれば即ち郡立、郡立ならざれば即ち町立、否ちざれば即ち蠶絲業組合立にゐざりましてこの本社の如き性質の團體にして斯る教育事業を實施せらるゝものは實に本社を以て嚆矢と致します並に是れ本社正副社長を始め社員各位の厚案に御熱心にして而も我國家の御思召の篤せらるゝの致せる所斯業の爲め國家の爲め眞に感謝に堪へません只今卒業せられたる諸子は即ち彼の精妙なる技術と

精確なる學理とを併せて修得せられたる諸子今や宇内の大勢我蠶業の改良増殖を促がすこと極めて急なれば靨て我蠶業界の諸子を待つ恰も彼の渇者の水に於けるよりも尙ほ甚しきものあるの今日十分御勉强を願ひたい斯業の爲に國家の爲に十分御忍耐を願ひたい百折撓まず千挫屈せず而して飽まで御名譽を發揚して戴きたい名譽は人の贈物名を立つるは行の極諸子の功成り名遂ぐるの日は即ち我蠶業界が諸子に向て感謝の意を表するの時でありまず就ては申すまでもなきことながら何事をなすにつけても先づ第一の資本は健康諺に曰く健康は成功の母と諸子夫れ自愛せられんことを切に希望致します

農商務技師紫藤章氏の祝詞　本日此卒業證書授與式を擧行せらるゝに當り當社長木村九藏君は本官等の臨席を農商務大臣に稟請せられたるを以て特に出張の命を蒙り玆に親く式場に臨み其盛況を目擊するを得たるは本官の深く光榮とする所にして又歡喜に堪へざる所なり依て聊か一言を演べて以て本日の祝詞に代へんと欲す

惟ふに從來蠶業改良の目的を以て國費、縣費、郡費若くは町村費等を以て蠶業講習所、傳習所若くは蠶業學校等を設立し着々其功を奏しつゝあるもの其數敢て尠からずと雖も純然たる私立にして其能く是等の事業を完成せるものは全國中實に寥々たり其盛況當競進社の右に出るもの蓋し稀なるべし競進社員諸君の多年蠶業の改良に鋭意盡力せられ其功の赫々たることは普く世人の知悉せる所にして今更予の賞賛を待たざるなり然れとも本社の盛運今日の如きに至りたるものは決して一朝一夕のことにあらず創業以來十數年間必や幾多の艱難に遭遇せられたるべく又幾多の浮沈も之ありたるべし其間社長始め社員諸君の辛苦經營せられたるの跡實に想察するに餘りあり彼の艱難を排し勞苦を厭はず百折撓まず千挫屈せざるの精神と熱心とあるにあらずんば焉ぞ能く此に至らんや予は本日始めて本社の實況を親て衷心頻に歡喜に堪へざるものあり想ふに實業の事有志如何に筆を尖にし舌を爛らして之を說くも主務者如何に之を勸誘し慫慂如何に之を奬勵するも眞正なる實業家にして果して其之を振起するの必要を感ずるにあらずんば到底百事爲すなくして止んのみ故に當社の如き官の保護に依らず他の誘掖に賴らず純然たる一團の有志組織より成る所の有力なる機關各地に勃興して始めて實業の眞正なる進步發達を見るべきなり是れ實に予が本來の希望にして當業者諸君に望む所亦實に玆にありて存す聞く當社員諸君は尙ほ從來の組織を以て滿足せず進んで現今蠶業進步の度に鑑みて大に之が改良を行ひ其規模を擴張するの必要を感ぜられ從來の養蠶傳習所の外に學理と實業とを併有せる蠶業講究所を設立せられ益々斯業の發達に資せんことを企圖せられ即ち本日玆に卒業の證を受けられたるの諸君は本所第一回の卒業生なりと云ふ果して然らば今回卒業せる生徒諸君の學力と技術とは又當に從前の傳習所の卒業生に比し層一層の高さを加へたるは深く信じて疑はざる所なり而して諸君が入社以來數閱月間日夜刻苦研鑽の功空しからずして玆に名譽ある卒業證書を得られたるは諸君の爲め否國家の爲め大に賀する所なり然れ共諸君忘るゝ勿れ名譽の大なるものは責任も亦大なることを又期せよ諸君が自今而後社會に出でゝ實業を執るに方りては過去螢雪の勞に比して更に幾

倍の艱苦あるべきを諸君にして若し小成に安じ爲すなくして止み又は其方針を誤らるゝが如きことあらんか本日の光榮と積日の苦學とは擧げて之を水泡に歸するのみならず實に本社の期する所に背き其體面を毀傷すること大なるものあらん諸君其れ深く己を愼み事に臨んで着實を旨とし進取の氣を失はず虛榮を慕はず浮利を希はず以て其涵養せる所の學術と技藝とを社會に活用せよ

今顧りて海外に於ける本邦生絲の近況を精査するに其輸出額は年一年に増加するの狀ありと雖も深く其實狀を觀察するときは前途憂ふべきの點甚だ多しとす夫れ本邦生絲は從來歐洲に於ては多くは緯絲に使用せられ米國にありては經絲緯絲に使用せらるゝもの各其半を占むるの狀況なりし然るに近年米國に於ける機業の進步殊に著しきものあるにも係らず本邦生絲の改良之に伴はざるを以て經絲の產生國たる佛伊二國の生絲は其虛に乘じて將に米國に於ける我生絲の販路を侵奪せんとするの形勢を示し加ふるに支那生絲亦逐年米國に販路を擴張するの傾向あり殊に彼の二十七八年日清戰爭は實に本邦實業界に一大打擊を與へたり即ち日清戰爭に於て赫々の偉績を顯はしたる大日本帝國は今や列國環視の中心にあり其一擧一動は忽ち世界の注意を惹き頗る恐怖の念を起さしめ爲に平和の戰爭即ち貿易事業の如き從來外人の深く意に介する所とならざりしが今や一小些事と雖も忽ち其視線を惹くに至れり就中我生絲貿易の如き前途甚憂慮に堪へざるものあり彼佛伊は更なり隣國支那の如き我國との戰爭後大に覺悟する所あり今や官民協力して着々自國蠶業の改良に着手し他日將に大に振起するの期あらんとすと聞く品質の優等なる伊佛の如く產額の巨大なる支那の如くにして一朝盛んに之が改良進步の道を講ずるに至らんか其銳鋒實に恐るべきものあり從て我國蠶絲業の前途亦未だ知るべからざるものあらん事若し此に至りて始て周章狼狽千悔萬悔するも業に已に晚し本邦蠶業家たるもの豈に謙め此間の大勢を觀察し粉骨碎身以て斯業の改良増殖を企圖せずして可ならんや夫れ然り而して之が改良の途は千緒萬端指を屈するに遑あらざるべしと雖も要するに是等の事一に素養あり經驗あるの士を俟つて初て之を能くすべきなり今や此必要なる時機に際して諸君の如き學術と技藝とを併せ修めたる人士を蠶業界に出す實に國家の爲め歡喜して措く能はざる所なり諸君希くは益々自愛して斯業の爲め盡力する所あれ以上數言を演べて祝詞となし併せて本社の益々隆盛に趨かんことを祈る

製絲家と佛國博覽會

來る三十三年佛國に於て開會せらるべき世界博覽會は其規模頗る宏大にして先年米國に開かれたる「シカゴ」博覽會より更に盛なることは確實なりとのことなれば此機會を捉へて世界の眼を驚かすの所爲に出でざるべからず美術品を始めとし日本國の名譽を高むるに足るべきものは固より大に出品することとならんと雖も就中此機に乘じて佛國人の甘心を博すべきものは製絲業者に在るべし何となれば生絲は我貿易品の隨一にして之が盛衰如何は國家經濟の消長に關すること大なるを以て勉めて輸出を奬勵せざるべからず而して其方法一二にして足ずと雖も生絲需要地の

博覺會を利用するが如きは其最も有効なるものなるべし第一佛國博覽會に生絲を出品するときは伊佛及清國等の生絲に比して優劣如何又何れが欠點にして何にか優所あるべきか素人は兎に角伊佛の機業家は熱心に批評する所あるべし左れば出品者若くは同業者團體代表者は可成多く渡航して博覽會に臨み伊佛機業家に就て聞く所あらんには發明する所頗る大なるべし日本の製絲家が歐洲の機業家に接見して自家製造の生絲の優所欠點等を知り得たらんには商品の約定も爲し得べく又斯く〳〵の見本を以て注文を申込むものあるときは其需めに應ずるを得べく其利益頗る大にして知らずの間に生絲の改良を促がすこと決して尠からざるべし然るに當業者中には博覺會に生絲を出品するが如きは無益の事にして先年米國「シカゴ」博覽會は正に其の貿易上に於ては常に一等の地位を占むる生絲必ずしも甲賞を得ず却て平素粗製濫造の弊ありと悪評せらゝ製絲家が名譽隨一なりしなど實に奇怪至極なりとて博覽會を無益の事業なるが如く吹聽するものあれども是れ實に謬見たるを免れず先年「シカゴ」博覺會の當時は各地方製絲家の多くは生絲を出品すればとて名譽と利益を博するものと考へず當局者の勸誘に餘儀なくせられし爲め出品したる次第なれば自ら渡航して自製生絲の評論を直聞するの勇氣なく唯だ生絲を出品し放しに爲したるに過ぎず斯の如くにして博覽會出品の無用なりと云ふは抑ゝ迷へり頑たる清國人すら生絲改良に汲々たる今日貿易品の名譽を博し利益を獲るの途あらんには鋭意以て之に盡くさゞるべからず而して其最良法は佛國博覺會に生絲を出品するにありと某氏は語られたり

◉特別廣告

◉會員諸件　左の諸氏は十月より十一月に渉りて入會若くは死亡せられたり

○入會

東京	田村彌三郎	京都　大西重吉
同	神藏要藏	同　一色芳藏
京都	橋本泰治	神奈川　佐野七郎
		同　石田源藏
		同　齋藤晃治
		長崎　松本善太郎
		同　渡井政吉

○通常會員

新潟　佐藤源一郎
埼玉　木崎仙太郎
同　淺見政次郎
群馬　折茂純一
同　山田梅太郎
同　黒澤貞藏
同　町田六三郎
同　林治作
千葉　深山源一郎
同　野口誠
同　弓削寅之助
同　荒川勝助
栃木　渡邊勇次
同　森國三郎
同　玉木波三郎
奈良　水谷鎌吉
愛知　山崎義文
同　武田鶴次郎
靜岡　細井德造
同　萩倉德太郎
同　金子芳藏
同　舟久保征郎
滋賀　西野專吉
岐阜　松田善三郎
同　安江延藏

岐阜　西尾榮次郎
同　稻越喜三郎
同　今井榮介
同　長野
同　島田幾太郎
同　柳平製絲所
同　大野與四郎
同　大澤四郎
同　馬場歲次
同　工藤佐六
同　春原良左衛門
同　田中森太郎
同　田玉逸作
同　倉澤禮助
同　南波吉左衛門
同　菅沼定左衛門
同　山崎善七郎
同　佐々木鶴太郎
同　今村信夫
同　菅沼民之助
同　土屋和作
同　横山安吉
同　山宮城
同　福島
同　齋藤平重郎
同　須田三治郎
岩手　高橋太吉

青森　福田省太郎
同　富善作
同　大矢暢
同　佐藤佐與次
山形　野口富藏
同　志田忠次
同　石川春吉
同　赤谷倫助
同　設樂岩次郎
同　佐竹友太郎
同　公益社
同　武田鶴次郎
同　渡邊作內
同　遠藤常吉
同　原田菅太郎
同　齋藤熊五郎
同　稻村熊治
同　阿部榮三郎
同　伊藤忠恕
同　佐藤文太郎
同　佐藤長助
同　高橋喜代松
同　佐藤慶藏
同　宮林源太

山形　渡邊金之助
同　原田橘茂
山形　松井喜一郎
同　杉浦忠作
同　青柳淺次郎
同　井上新兵衛
同　瀨佐庄五郎
和歌山　愚地繁松
同　山本貞吉

計　百八名

右の内にて田村氏は高崎治平氏、神藏、橋本、玉木、大澤、高橋（太吉）羅田、岡部の七氏は二宮鶴松氏、大西氏は渡邊義武氏紹介せられ一色、石田、松本、佐藤（源一郎）山田、林、水谷、細井、金子、舟久保、松田、安江、島田、土屋、河野、小笠原の十六氏は各自に申込まれ齋藤（熊藏）渡井の二氏は齋藤省三氏、佐野氏は佐野安太郎氏、齋藤（晁治）氏は小林昇氏、木崎、淺見の二氏は橋本藤二郎氏、折茂、町田の二氏は白石延太郎氏、黑澤氏は境野清衛氏、深山、野口、（誠）弓削の三氏は生方五郎氏、荒川、渡邊（勇次）の二氏は前澤清兵衛氏、森氏は本多岩次郎氏、武山氏は稻葉登名藏、脇田重太郎の二氏、荻倉氏は桃井與五右衛門氏、西野氏は大鳥金松氏、西尾氏は坪井誠爾氏、稻越氏は鈴木七郎氏、今井氏は安江延藏氏、椚平製絲所及大野、佐々木、今村、菅沼の四氏は木下富氏、馬場氏以下山崎氏に至る九氏は久保田外治氏、横山氏は埴原英三郎氏、齋藤（平重郎）須田の二氏は伊達郡支會、富、大矢の二氏は震元司郎氏、佐藤（佐與次）以下二十八氏は山形支會、愚地、山本、出口の三氏は田中藤三郎氏、佐藤（倫俊）住永、信濃、上島、阿子島、加納の六氏は永野莊吉、吉田太力の二氏、澤、黑田、水町、丹羽、森松、西田の六氏は吉田太力氏挑る紹介せられたり

○通常會員

和歌山　出口桑之輔
愛媛　岡部貫一
同　河野駒治郎
同　小笠原忠澄
高知　加納浩元
北海道　佐藤倫俊
同　石澤泉太郎
同　黑田德治郎
同　住永勇義
同　水町武成

北海道　信濃茂助
同　上島惣五郎
同　阿子島安元
同　加納浩
同　丹羽金十郎
同　森松常太
同　西田松太郎

○死亡

埼玉　持田角次郎

宮城　田村可也

山形　佐藤駿藏

●大日本蠶絲會新潟支會第二回品評會費として寄附金

一金六圓　山田政圖
一金五圓　吉池慶糸
一金五圓　長岡製淳太郎
一金五圓　小出善吉
一金五圓　小林正太郎
一金五圓　補崎鈴太郎
一金五圓　五十嵐太郎
一金五圓　荒井寅三郎
一金五圓　小藪準平
一金五圓　太安之助
一金五圓　金左衛門
一金五圓　森彦次郎
一金五圓　橋善之平
一金五圓　大小左衛門
一金五圓　松田萬次郎
一金五圓　丸山伊次郎
一金五圓　五中亀次郎
一金五圓　菊田憲次郎
一金五圓　天野利右衛門
一金五圓　大奥久郎
一金五圓　沼野井次郎
一金五圓　岡村谷仁三郎
一金五圓　盧谷禎治
一金五圓　岩舟郡蠶糸業
一金五圓　組合事務所
一金五圓　合資會社越陽館
一金五圓　渡邊正規
一金五圓　澤井嘉一郎
一金五圓　櫻山正毅
一金五圓　田喜代士郎

一金壹圓　鈴木三郎
一金壹圓　本富利
一金壹圓　宮原貨一郎
一金壹圓　原信太郎
一金壹圓　林字郎
一金壹圓　中宙郎
一金壹圓　小名太郎
一金壹圓　名見那吉郎
一金壹圓　西片與米
一金壹圓　坂井右衛門
一金壹圓　中島喜
一金壹圓　佐藤俊
一金壹圓　水藤丑吾
一金壹圓　遠藤恒藏
一金壹圓　大藤之助
一金壹圓　高野卯三郎
一金壹圓　曾澤輔太郎
一金壹圓　五十嵐拾四郎
一金壹圓　内藤惟一
一金壹圓　町澤理一郎
一金壹圓　佐藤直衛
一金壹圓　渡邊信三郎
一金壹圓　長谷川桂三郎
一金壹圓　近藤儀一郎
一金壹圓　堀井榮太郎
一金壹圓　小田義文
一金壹圓　山田英太郎
一金壹圓　山田靜五郎
一金壹圓　根立益忠
一金壹圓　島垣郡保
一金壹圓　伊藤號平
一金壹圓　亘松

一金壹圓五拾錢　櫻山田喜代士郎
一金壹圓五拾錢　澤井嘉一郎
一金壹圓五拾錢　渡邊正規
一金壹圓五拾錢　金資會社越陽館
一金壹圓五拾錢　櫻山正毅
一金壹圓五拾錢　田喜代士郎
一金壹圓五拾錢　鈴木三郎
一金壹圓五拾錢　本富利
一金壹圓五拾錢　宮原貨一郎
一金壹圓五拾錢　原信太郎
一金壹圓五拾錢　林字郎
一金壹圓五拾錢　中宙郎
一金壹圓五拾錢　小名太郎
一金壹圓五拾錢　名見那吉郎
一金壹圓五拾錢　西片與米
一金壹圓五拾錢　坂井右衛門
一金壹圓五拾錢　中島喜
一金壹圓五拾錢　佐藤俊
一金壹圓五拾錢　水藤丑吾
一金壹圓五拾錢　遠藤恒藏
一金壹圓五拾錢　大藤之助
一金壹圓五拾錢　高野卯三郎
一金壹圓五拾錢　曾澤輔太郎
一金壹圓五拾錢　五十嵐拾四郎
一金壹圓五拾錢　内藤惟一
一金壹圓五拾錢　町澤理一郎
一金壹圓五拾錢　佐藤直衛
一金壹圓五拾錢　渡邊信三郎
一金壹圓五拾錢　長谷川桂三郎
一金壹圓五拾錢　近藤儀一郎
一金壹圓五拾錢　堀井榮太郎
一金壹圓五拾錢　小田義文
一金壹圓五拾錢　山田英太郎
一金壹圓五拾錢　山田靜五郎
一金壹圓五拾錢　根立益忠
一金壹圓五拾錢　島垣郡保
一金壹圓五拾錢　伊藤號平
一金壹圓五拾錢　亘松

一金五拾錢　柳澤叉市
一金五拾錢　土田叉藏
一金五拾錢　金澤佐兵衛
一金五拾錢　岡村菜太郎
一金拾錢　石澤寛治
一金拾錢　中澤德松
一金拾錢　小梅積藏

●大日本蠶絲會山形支會基本財産として寄附金

一金七圓　佐藤保嘉治
一金壹圓　保科忠三郎

●大日本蠶絲會山形支會發會式寄附金

一金五圓　芝山直淸
一金三圓　長谷川平內
一金貳圓　山形製絲塲
一金貳圓　三浦權四郎
一金貳圓　佐藤勘治郎
一金貳圓　多勢吉郎治
一金貳圓　五十嵐重三郎
一金貳圓　船山善吉
一金貳圓　芦野泰治
一金貳圓　田中邦孛
一金貳圓　工藤治平
一金貳圓　細梅勘六
一金貳圓　伊豆倉庄治
一金貳圓　佐々木市四郎
一金貳圓　金子孫左衛門
一金貳圓　多勢龜五郎
一金貳圓　石山學太郎
一金貳圓　川村利三
一金貳圓　佐藤道三
一金貳圓　今田彌兵衛
一金壹圓五拾錢　上野安昌
一金壹圓五拾錢　人見堅治
一金壹圓　櫻井仲藏
一金壹圓　岩田孫四郎
一金壹圓　鬼澤松之助
一金壹圓　雄倉茂治郎
一金壹圓　長谷川吉內
一金壹圓　長谷川吉三郎
一金壹圓　福島治助
一金壹圓　松田宗兵衛
一金壹圓　三條吉之助
一金壹圓　會田太七
一金壹圓　黑木善兵衛
一金壹圓　吉見治兵衛
一金壹圓　本多成允
一金壹圓　加藤安義
一金壹圓　菊地庄兵衛
一金壹圓　粕谷次郎
一金壹圓　前田仲治
一金壹圓　柴田七郎兵衛
一金壹圓　伊藤四郎右衛門
一金壹圓　宮川潜藏
一金壹圓　平澤彌五郎
一金壹圓　土田與兵衛
一金壹圓　齋藤作兵衛
一金壹圓　釜屋辰太郎
一金壹圓　佐藤與一郎
一金壹圓　丸山孝一郎
一金壹圓　棚橋文藏
一金壹圓　峰村喜藏
一金壹圓　廣居忠貢
一金壹圓　松田源太郎
一金壹圓　行方長造
一金壹圓　安藤吉次郎
一金壹圓　高橋信吉
一金壹圓　布施應吉
一金壹圓　長谷部菊彌
一金壹圓　西村庫治
一金壹圓　横山辰之助
一金壹圓　佐藤義晴

一金壹圓　飯田章
一金壹圓　辻村知太治
一金壹圓　栗原吉助
一金壹圓　高橋角藏
一金壹圓　松田市太郎
一金壹圓　今田永次郎
一金壹圓　齋藤義八郎
一金壹圓　氏家英丸
一金壹圓　佐藤喜作
一金壹圓　會田源次郎
一金壹圓　茂木英之助
一金壹圓　阿部與三郎
一金壹圓　井上傳次郎
一金壹圓　鈴木左之雄
一金壹圓　佐藤保加治
一金壹圓　小畑金作
一金壹圓　今田重郎
一金壹圓　佐藤慶藏
一金壹圓　石川春吉
一金壹圓　池田文次郎
一金五拾錢　室岡市藏
一金五拾錢　佐山安盛
一金五拾錢　山川次郎治
一金五拾錢　澤田緻治
一金五拾錢　木野源六
一金五拾錢　垂石大助
一金五拾錢　平澤源內
一金五拾錢　柴崎祐治
一金五拾錢　伊藤延太郎
一金五拾錢　山口速
一金五拾錢　大國松衛
一金五拾錢　北典一郎
一金五拾錢　小松助彌
一金五拾錢　奧山清志
一金五拾錢　山崎喜一
一金五拾錢　長谷部庄一郎
一金九拾錢　土屋熊五郎
一金五拾錢　五十嵐惣次郎
一金五拾錢　金田德治
一金五拾錢　鈴木安太郎
一金五拾錢　山田庄七
一金五拾錢　渡邊彌三郎
一金九拾錢　齋藤清志
一金七拾錢　鈴木政藏
一金七拾錢　深瀨庸光
一金七拾錢　水野辰五郎
一金七拾錢　阿部丈作
一金五拾錢　多田清次郎
一金五拾錢　伊藤忠恕
一金五拾錢　佐藤文太郎
一金五拾錢　石川理右衛門
一金五拾錢　渡邊久兵衛
一金五拾錢　武田爲次郎
一金五拾錢　石川一
一金壹圓五拾錢　今井次郎三郎　鈴木與一郎
一金壹圓五拾錢　白田孫次右工門　白田幾松　鈴木清助
一金五拾錢　志藤權太郎
一金五拾錢　安孫子治右工門
一金五拾錢　龜山文藏
一金五拾錢　長岡保作
一金五拾錢　鈴木イシ
一金五拾錢　松田ナエ
一金五拾錢　白田嘉內
一金五拾錢　木村貝作
一金五拾錢　阿部直衛
一金五拾錢　佐竹友太郎
一金五拾錢　椎名富太
一金五拾錢　加藤與平
一金五拾錢　小林長康
一金四拾錢　小林幹次郎
一金五拾錢　橋本兵彌
一金五拾錢　土屋茂八
一金五拾錢　齋藤權右工門
一金五搭錢　佐藤侶次
一金五拾錢　草刈彌吉
一金五拾錢　三條廣治
一金五拾錢　廣井直治
一金四拾錢　大須賀久三郎
一金三拾錢　布施富次
一金三拾錢　石黒透
一金三拾錢　千葉常之助

大日本蠶絲會入會手續及會員心得

一　本會に入會せらるゝには住所氏名を詳記したる入會書に一ヶ月金拾錢の割合にて入會せらるゝ月より向ふ一ヶ年分以上の會費を添へて申込まるべし

一　入會以前の會報を要望せらるゝときは一冊に付金拾錢を領收したる後之を送付すべし

一　會費其他の金員を本會に送致せらるゝには郵便爲替又は小爲替證書は掛渡局所名を神田淡路町とし且つ小爲替證書の表面右の方に設けある區畫の「差出人は此處に受取人の宿所氏名を記すべし」とある下に「東京神田美土代町一丁目一番地大日本蠶絲會」と記入せらるべし、通運便に託し現金にて送致せらるゝ節は必ず配達賃拂込濟にせらるべし、郵便切手代用の節は必ず一割增にて送致せらるべし

一　會費金は毎年規定の通り（翌年の分は前年十二月中に）前納せらるべし

一　氏名、住所等を變更せられたるときは其都度直に本會に通知せらるべし

一　退會せらるゝときは必ず其月までの會費を拂込みたる後にあらざれば之を了諾せず

一　會員中死亡せられたるときは其家族又は其地方の會員より本會に通知せらるべし

一　質問書は半紙を用ひ一紙に一件を限り字體は成るべく楷書にて明瞭に記し且つ何府縣何市郡何町村大日本蠶絲會何會員某と署名し又其質問を要する物件方言のみにして本名判然せざるときは成るべく現品を添へて送致せらるべし

一　會費金を督促したる後猶出金せられざる者は之を本分の義務を盡されざる者と看做し本會規則に據り除名すべし

此心得は會員諸君常に能く了知せらるゝは勿論他人の入會を誘導せらるゝの際には殊に之を示されむことを要す

大日本蠶絲會

撚篠製造機の大發明

特許有益 **繭附枝速製器械**

發明者輪氏
一名撚篠製造機械定價金五圓小錢

一方には從來労働無効費の製造止め莫利なる副産物を作り一方には安樂に完全なる費の製造し最廣の利益を謀るべし

（マブシ見本郵券四錢送らば進呈）

養蠶の尤も必要に尤も大切なる「マブシ」を造成するの器械として發賣目覩淺きも到る處非常の喝采を博したる本器は從來の「マブシ」よりも至て簡便に至て速かに至て完全に製造し得る樣發明したるものにて從來のシマダマブシは蠶を波形になす故其製作するの面倒なる蠶に取付くるの不便なるは勿論上簇に際し剪に易く空氣の流通惡しくカヤ當りなるも繭質を損する等種々の不便は一般に憂ふる處なり

此器械なる以て製造したる繭は左の利益あるのみならず手數を要せず切葉及び繩を用意し設けば圖の如きマブシを一日手水以上製造し得るが故に別段製造して貯へ置くの必要なく故何に上簇に際し繁忙なる時にても一日蠶箔二百枚餘に間に合得るが故に上簇の間隙に至り即ち製造し得る世界未曾有の大有益なるが故一戸一集赤は數戸共同して必ず使用すべきの機械なり

此簇の効益●蠶繭の上へ横たへ熱蠶のみを上簇せしめ容易の他に移すことを得ること●蠶箔の少なきときは此撚簇へ上簇したるまゝ天井へ釣り又は適法にすれば空氣の流通宜しく從て光澤を得る事●從來の被等簇より繭を作る場所多き故二百枚を作る場所へは三百枚は容易なり●繭絲錢を增し●繭を拯き落すに尤も便利なり●人夫を省く事●水蒸は春來小宮殿下御用邸を始め農商務省四ヶ原試驗場各地農會組合及び各自の試驗何れも完全なる成績を得目下注文入込み居れり明年期夢には諸想外多數の注文あるを期せり故に此際島田撚の如き勞して効なきものを製するを止め此際御注文の上明年好結果を謀られんことを願上候

●各地一郡以上、特約一手販賣を設け候先分利益ある樣御相談可仕候別して特約は目今の間にせざれば季后問際にては製造先分手廻り兼可申候御承知の上至急御申込被下度候

●養蠶具農具數百種一式御賣仕候農會組合の共同購入へは特に割引可仕候

●改良農蠶具圖解說明報告要望の士は二錢送らば三十餘ページの冊子を無代進呈可仕候

東京淺草區田町二丁目十七番地

改良農具蠶具　全國一手發賣元　内國農具改良組本部

●送金に就き注意

會費其他の金圓を本會に送付せらるゝとき郵便爲替又は小爲替證書は拂渡局所名を東京神田淡路町に小爲替證書の表面右の方に設けある區畫の「差出人は此處に受取人の宿所氏名を記すべし」とある下に「東京神田區美土代町二丁目一番地大日本蠶絲會」と御記入相成るべし

現金を通運便に託し送付せらるゝときは必ず配達賃御拂濟みに相成るべし

郵便切手代用の節は必ず一割增にして御送付相成るべし

大日本蠶絲會

品位競爭春蠶種

本社蠶種ノ期スル所ハ他種ト成繭ヲ競フテ必勝スルニアリ普通製ハ精眞種ヲ得ルノ道ニアラザルニヨリ本社ハ框製種ヲ專製ス種類代價等ハ御照會次第詳答ス

誓約　再檢査ノ節不合格ノトキハ返價換種共要求ニ應ス●送種途中ノ損傷ハ辨償ス●若シ違作スレバ豐作スル迄連年無代贈種ス

埼玉縣比企郡南吉見村前河內　興農館蠶種社

●質問者の注意

本會へ送付せらるゝ質問書中一紙に數件を記し或は端書を用ひ或は片紙を用ひ又は字體不明瞭のもの等往々之あり取扱上不便少なからず候に付爾後は必ず半紙又は美濃紙を用ひ一紙に一件を限り字體は成るべく楷書若くは行書にて明瞭に認め且つ其住所氏名を明記せらるべし

大日本蠶絲會

●蠶業講習所御編纂
●桑樹萎縮病調査報告
一冊石版圖入●賣價二十五錢郵稅六錢

●田村多門著述
●桑樹萎縮病豫防法
全一冊　賣價二十五錢郵稅四錢

桑樹萎縮病の調査は目下の大問題にして之を精査し之が豫防及ひ撲滅の方法を講究するは養蠶家急要の事業として各人の焦慮する處前記二書は萎縮病に就き實用に適切なるの故を以て御注文益々多なり御入用の諸君は前金（爲替南傳馬町郵便受取所振當）にて御注文あらん事を乞ふ

發兌　東京々橋區南傳馬町二丁目　穴山篤太郎

牧畜雜誌

第百四十五號目次（十一月十五日發行）

○寒暖遊水牛の隱圖○論說●家畜衛生學の發達及其範圍○雜錄●臺灣の水牛●輓駄馬の飼料●馬の性癖及体相●牛馬の勞働時及餘休時●乳汁の變化●斯道誤解牧場沿革（接前百四十一號）●山羊の効用●豕肉の輸出及需要（承前）○寄書●種牛論○叢話●稿馬記（▲大阪地方の牛疫▲乳牛と獸醫▲肉牛賣買法）○問答●肉浴に付き質問（第百四十三號の答）●種牛の件に付質問（第百四十四號の答）●乳牛及屠牛の件に付き質問●乳汁に及ぼすレンチツトに付き質問○鷄の赤痢に付き質問●豕に付き質問○統計●全國種牡馬數○雜報●政府買入の種馬比較種馬安着す●群馬縣首妻牧場●福島牝馬共進會●福島縣獸醫畜産會●讚岐牛馬共進會景況●種牡牛馬交尾頭數●牛疫豫防會議●東京獸醫免許試驗●臺灣通信（▲輸入豕▲琉球豕の輸入▲豕の繁殖獎勵）●釜山港輸出生牛狀況●犬使用の試驗●米國の家畜輸入稅●澳洲牛畜輸出●英國輸入の稿鄉●獸疫○法令●馬匹の調査及檢査に關する法律●同施行規則●蹄鐵工免許試驗規則

◎毎月十五日發行●壹冊郵稅共金拾錢●半ヶ年分同金五十五錢●壹ヶ年分同金壹圓◎郵便爲替は東京神田淡路町郵便受取所渡りに御取組の事◎郵便切手代用は一割增の事

發行所　東京神田區美土代町二丁目一番地　牧畜雜誌社

農事新報

第百九號十月發行　一冊八錢郵稅五厘　十一冊前金郵稅共七十五錢見本は切手九錢前金ならされは送本せず●爲替は南傳馬町郵便受取所振當●郵便切手代用壹割增

●論說●選種法を農にせる大麥種子の發芽力●臺灣の苧痲●浮塵子の研究●西伯利の日本茶●農工銀行の設立に就て●勸業銀行貸出方針●獨立は財産のみに依るべからず●獨立者の用心●寄書●水田を乾田に改むる事に就て●食用菊に就て●陸稻の概況●油菜栽培法●外雜錄雜報數十件●本報は每號六十頁より七十頁に至り記事豐富殖産上の事網羅せざるなし

發行　東京々橋區南傳馬町二丁目　有隣堂

●再版發兌廣告

（爲替は南傳馬町郵便受取所にて受取得る樣振込相者宛御送付の事）

松永農商務技師著述
●蠶桑實驗說
全一冊　賣價五十錢　郵便六錢

右は發兌以來適切最良の蠶書として歡迎せられ忽にして品切れ御注文に應し兼候處今回再版出來候間此段謹告候也

發兌　東京々橋區南傳馬町貳丁目　穴山篤太郎

競進社長木村九藏先生校閲　群馬縣折茂住平君著

増補再版

養蠶講義

價三十錢　郵稅四錢

●寫眞版　高山社創立者高山長五郎、藤太郎、競進社長木村九藏三君の像

●附錄　には右高山折茂木村の三兄弟が蠶業界に盡されたる實傳を揭ぐ

目次

諸言○撰種の事○蠶種保護の事（第一期、第二期、第三期）○飼育の事（溫度、空氣の流通、給桑、掃立、炭火用法、第一、二、三、四、五齡、上簇）○收繭取扱及殺蛹の事○貯繭の事○蠶種製造の事○蠶室構造の事

挿繪　掃立に際し蠶種の持方　催靑器の圖　給桑に際し桑篩の持方　炭火の埋方　生繭殺蛹器製造法圖解　完全蠶室圖解　及全躰床板天上の圖床下壁地氣管の圖氣拔及柱立の圖

目今蠶書の發行汗牛充棟啻ならずと雖も多くはテーブル養蠶家の想像的空論にして實際に應用すべき樣丁寧詳密に述べたる本書の如きは甚だ稀なり世の養蠶家研究に志ある諸君本書を精讀せば彼の天下に名高き高山社競進社に入りて卒業したると同樣の智識を得べきや疑なし殊に本書は文躰のやさしき上に總ふりかな付なればかな知る人は讀み且つ解するに難からず第一版に倍し御愛讀を希望す

發兌元　東京芝區高輪南町三十番地　丸山舍

毎月一回十五日發行●第五十二號十月十五日發兌

蠶業新報

定價壹部郵稅共七錢五厘十二冊分前金郵稅共八十四錢廿四冊分同一圓五十六錢●廣告料廿二字詰一行七錢●見本は郵券八錢と要す

口繪　寫眞銅版　故高山社長高山長五郎群馬縣蠶種家折茂藤太郎山梨縣蠶種家小野元兵衛清國蠶業視察者西松喬四君の肖像

●目次○蠶種改良の必要○高橋信貞○國家經濟の膨脹と製絲業橋本重兵衛○種類改善を計らんと欲せば須らく先づ撰繭法の改良を蘇れ宮入兵右衛門○上簇後の注意に就きて山本竹藏○秋蠶飼育法と春蠶飼育法の相違相馬愛藏○養蠶の話練木喜三○蠶種の話滑替乘合汽車接山蠶史○蠶窓繊威南毛蠶史○高山社長町田菊次郎氏傳東山逸民○蠶徴粒子毒研究第一回報告詳細圖入帝國大學敎授佐々木博士調査○此他統計問答繊報數十件又特別附錄として久保貞次郎著の栽桑講義あり苟も蠶業に從事するものゝ一日も欠く可からざる蠶業專門雜誌なり

◎蠶業新報合本　明治二十七年分明治二十八年分明治二十九年分各總目錄付總クロース洋裝美本金文字入廿七八年代價六拾錢宛一部郵稅拾貳錢●廿九年分（十五部綴）代價七十五錢郵稅一部拾四錢●送金爲替は三田局振込切手代用一割増の事

發行所　東京芝區高輪南町三十番地　蠶業新報社

横濱生絲檢查所檢查部長　從七位高橋信貞先生講述

訂正増補　生絲繭蠶種審査法

全一册　洋裝美本　定價四十錢　特別實價三十五錢　●郵稅四錢

本書第三版後久しく賣切れの處今回大に訂正增補を加へ且つ傍圖を附し第四版として出版發賣す抑も博覽會共進會及び品評會出品生絲、繭、蠶種、審査の至緊至要なる喋々の辯を俟たず故に一朝其審査の眼目を誤らむ乎獎勵反て改良進步の障礙を來し遂に邦家の福祉を毀傷するの不幸を將來に招くに至る慎重せざるべけんや本書は高橋先生か多年經驗せられし審査上緊要の條件を學理と實驗に徵して網羅蒐集し實物を要する箇所は精圖を挿入して之が使用法を懇切叮嚀に示されたるものなれば府縣郡市の當局者は勿論蠶絲業者の座右に缺くべからざる今古無類の良書なり

大賣捌所

東京市京橋區銀座二丁目　服部書店

東京市京橋區南傳馬町二丁目　有隣堂

東京市日本橋區通三丁目　丸善商店

勝約販賣養蠶熱心家ニ告グ

弊館曩ニ大日本農會報第百九十一號ニ於テ春蠶種無代進呈ノ披露致候處滿員ノ如何ニ拘ハラズ百五十餘名ノ諸君ヘ送呈申上候ハ聊弊館信用ノ一端ヲ表致候儀ト存候其際申上候通弊館ハ幸ニ埠多摩川沿岸ニ致候ト唯熱心ト注意トヲ以テ多年一番蠶種製造罷在候處本年ヨリ一層擴張ヲ圖リ先第一着トシテ前條次第ヲ以テ各位ノ御試育ヲ望ム事ニ仕候然ルニ明年ヨリ蠶種檢査法實施セラルヽコトニ爲メ相成候弊館此好機ニ乘ジ平生信用ヲ全センガ爲メ豫防約方法ヲ設ク世間ノ需要ニ應セントス存候斯クの如ク中上候ハ原種用ノ弘ク貯藏中豫メ御入用ノ種類枚數等御通知置被下候ヘバ弊館ハ之ニ隨テ如何樣ニモ完全ノ準備出來可致ヘク御雙方ノ利益ト奉察候其果シテ精撰純良ナルヤ否ハ偏ニ各位ノ御飼育ヲ待ツテ好評ヲ仰キ度候謹言

東京府北多摩郡四村村四ツ谷百五十六番地
多摩蠶主　市川茂一

一種類

白玉、又書、大亦、小石丸、玉龍

玉龍ハ白玉ト明蠶トノ混合ハ弊館多年經驗ノ特品ニシテ形狀圖ノ如ク額上ナヲズ解舒尤モ宜シ

一代價

一枚豫約價金壹圓
一框製同一蛾金二錢　蛾付金三錢五厘

一豫約期限

大略の通知マヲニテ可也
明治三十年十二月十五日限
其他一切御照會に依る

商標

人造肥料廣告

●有功賞牌　●有功賞牌　●有功賞牌

骨粉肥料　壹叺正量　拾貫目入

純良過燐酸　壹叺正量　拾貫目入

○窒素質肥料及重過燐酸も御注文に應することあるへし

右は明治十九年創業以來品質正確勉强代價を以販賣罷在候處今般業務一層擴張の爲原料を選ひ純良品を以て格別勉强手廣に販賣仕候間何卒倍舊御愛顧御注文の程奉願上候●尙詳細の施用方法書等は御報次第送呈す

東京市本所區菊川町二丁目五十七番地
日本人造肥料製造販賣元祖
松原製造所

●會員募集

但規則書を望まるゝ向は郵券貳錢又見本の爲め會報御入用に候はゝ切手拾錢送付あれは直に郵送す

東京下谷區長町五二
大日本織物協會